

WRBⅡ (新リク&背リクバギー)

取扱説明書

WRBⅡを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見る事ができるよう大切に保管してください。

WRBⅡの特長

■ブラッシュアップポイント

- ダイヤルロックの位置を見直して、全高が6cm～10cm(サイズによる)低くなりました。
- LLサイズにも背高さ調整機能が加わりました。

■これまでの基本機能も継承

- ISO (国際規格) による衝突安全テスト「ISO7176-19 Annex A」に全サイズ合格。
- バックサポートや座フレームなどの角度を変更して、お着替えやおむつ替えなどがおこないやすい姿勢〈ケアポジション〉に設定できます。
〈バックサポート(背リク)は最大倒し角度が25°増えて140°になり、前座は傾斜を下げることができます。〉
- シートユニット
 - ・芯材が入った張りのあるアームガードを装備。
 - ・身体のすぐそばからベルトを取り出せる〈トランクサポートベルト〉用のダブルファスナーを背シートに装備。

■オプション

- 日よけの生地は遮光率100%、UVカット全面90%以上、さらに防災加工が施されています。
- 身の回り品や吸引器などを搭載する方にはアンダートレイが装着できます。
- 姿勢が前に丸くなるお子様には、胸肩ベルトも装着可能です。
- 身体のそばからしっかりサポートできるトランクサポートベルト。
- 体幹・骨盤パッドのハイタイプが選択可能。
- 座面に外転防止パッドが取り付けられます。
- 福祉車両などの車載固定ベルトがかけられる車載固定部品。



目次

■ 安全にお使いいただくために……………	P1・2	■ 体幹サポートインナーパッドの取り扱い……………	P15
■ 各部の名称……………	P3	■ 前後足連結バー引っぱりバネ……………	P16
■ 製品構成……………	P3	■ 折りたたみ方と開き方……………	P17・18
■ オプション部品……………	P3	■ 車いすの取り扱い……………	P19
■ 使用前点検……………	P3	■ アームサポート金具の取り扱い……………	P20
■ 各部の取り扱い……………	P4～10	■ WRBⅡ用テーブル……………	P21・22
■ 開き防止ベルトの取り扱い……………	P11	■ アンダートレイの取り扱い……………	P23
■ 開き防止ベルトの使用方法和抱え上げるときの注意……………	P12	■ 車載時固定用フック受け金具の取り扱い……………	P24
■ ケアポジション……………	P13・14	■ 車載使用(走行する車両において座席として使用) についての注意……………	P25・26
■ 調節スリングシート……………	P14・15	■ お手入れ・メンテナンス・仕様……………	P27



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

本書記載事項以外の使用はしないでください。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。

- ⊘ 本人を乗せたまま放置しないでください。
- ⊘ はずみをつけたり、つき放したりしての移動(走行)はしないでください。
- ⊘ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- ⊘ ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがごこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- ⊘ エスカレーターでは使用しないでください。(一般的にも禁止されています。)
- ⊘ 子供に操作させないでください。
- ⊘ 坂道での駐車はしないでください。
(ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があります大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。)
- ⊘ 座席やバックサポート、フットサポート等に立たせないでください。
- ⊘ 本人を座らせたまま、本体を抱えて移動しないでください。持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたたんで介助者の手をはさむおそれがあり、大変危険です。
- ⓘ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
(身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方医や取り扱い業者にご相談ください。)
- ⓘ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- ⊘ 座面後部を水平より起した状態で使用しないでください。折りたたみ構造の都合上、急に折りたたむおそれがあり危険です。
- ⊘ 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- ⓘ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- ⊘ 改造や分解はしないでください。



注意

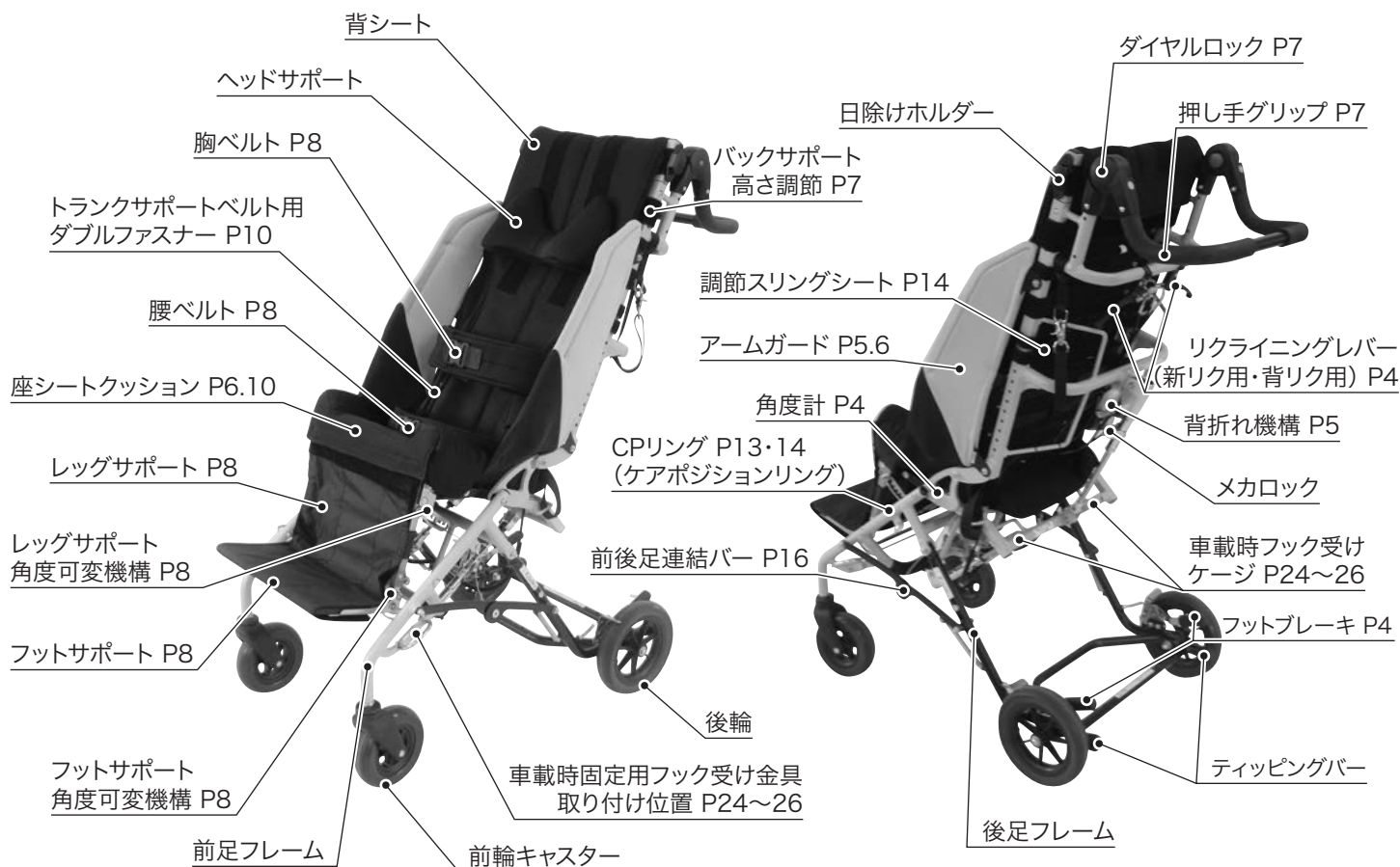
使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的損害が発生する可能性が想定される事項です。

- ⓘ 医師の処方で製作された場合
 - ⊘ 本人以外での使用はしないでください。
(個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出したりしないでください。)
 - ⊘ 処方目的以外での使用はしないでください。
- ⓘ 車いすを正常な状態で走行させていても、不意に前輪が段差に引っかかった場合には、前方へ転倒する可能性があります。走行する際は前方の路面状態を確認しながら進んでください。特にティルトやリクライニングを起こした姿勢で胸ベルトを緩めに調整している場合に前方転倒のリスクが高まりますので、十分にご注意ください。
- ⓘ 段差越えの際のキャスター上げ操作はティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、けがのおそれがあります。(段差越えについては19ページを参照してください。)
- ⓘ エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。

- ❗ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- ❗ 製品を折りたたんで持ち運ぶときは、不用意に開かないように開き防止ベルトでしっかり固定されていることを確認してください。(開き防止ベルトについては11ページを、持ち運びについては12ページを参照してください。)
- ❗ 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ❗ 走行する車両内で座席として使用する場合は、この取り扱い説明書の本文(P25～P26)をよく読んで理解し、搭乗者もしくは保護者(入所施設の責任者など含む)の責任において実施してください。
- ❗ 車椅子を車両に固定する際は、車両に設けられた車椅子固定装置を使用してください。事前に車椅子固定装置の取り扱い説明書をよく読んで理解し、正しく使用してください。
- ⊘ 折りたたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- ⊘ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⊘ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⊘ 押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。(後方に倒れることがあります。)
- ⊘ 子供がバックサポートなどにぶらさがらないようにしてください。バックサポートなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。
- ⊘ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⊘ 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⊘ 調節スリングシートや体幹・骨盤パッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⊘ シートを取り外した状態での使用はしないでください。
- ⊘ 気温の差が激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方医・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ❗ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながるがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⊘ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落したり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロックなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⊘ 水中での使用は絶対にしないでください。
- ⊘ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称



製品構成

			個 数
■基本フレーム			1
■調節スリングシート(背・座)			1
体幹サポート インナーパッド	体幹	左右1対	
	骨盤	左右1対	
座面前方ウェッジ			1
レッグサポート			1
■シートユニット			
	背シート		1
	座シート		1
	アームガード	左右1対	
	ヘッドサポート		1
	胸ベルト		1
	腰ベルト		1

オプション部品

■日よけ	
■介助ブレーキ	P10
■転倒防止装置	P10
■アームサポート金具	P20
■テーブル	P21.22
■ヘッドサポートⅠ型	
■インナーパッド・ハイトタイプ	
■外転防止パッド	P10
■アンダートレイ	P23
■肩ベルト(胸肩ベルトのセット)	P9
■トランクサポートベルトⅠ型	P10
■トランクサポートベルトⅡ型	P10
■骨盤サポートベルト	
■車載時固定用フック受け金具	P24~26

使用前点検

- ◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- ◎折りたたんだ状態から、正しく広げられていることを確認してください。
- ◎リクライニング機構やティルト機構がスムーズに作動することを確認してください。
- ◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
- ◎前輪キャスターや後輪にヒビ割れや欠け、破損がないことを確認してください。

各部の取り扱い

■新リクレバーと背リクレバー

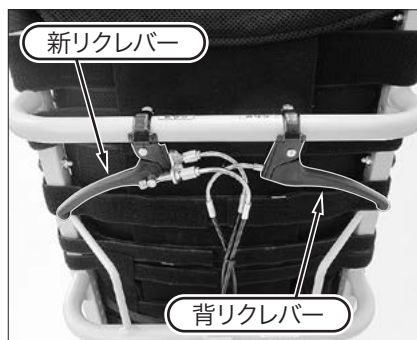
リクライニングレバー（新リク用・背リク用）は、無段階で調節がおこなえます。レバーを握るとロックが解除されます。握っている間は解除されたままで自在に動くので任意の角度に設定したら、レバーをはなしてください。その角度でロック（角度固定）できます。

①新方式リクライニング（新リク）

バックサポートと座面後部が、一体となってリクライニングします。

②背リクライニング（背リク）

バックサポートのみがリクライニングします。



新リクライニング



背リクライニング



- リクライニング角度を調節するときは必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。乗っている方の体重を支えるように操作してください。
- リクライニングレバーのあそびが多くなってきたら、操作がスムーズにできなくなります。そのようなときはワイヤーの張り調整をおこなってください。
- 座面後部を水平より起した状態で使用しないでください。折りたたみ構造の都合上、急に折りたたむおそれがあり危険です。
- お子様には絶対に操作させないでください。

■角度計の利用方法について

この製品には角度計が取り付けられています。フレーム左側面の新リク・背リク支点金具に装着しています。使用される方の身体状況や使用場面に合わせて、新リク角や背リク角などの起こし角度・倒し角度を適切に設定するときの目安にしてください。新リク用は赤い針が角度を示して、一方の背リク用は支点金具の凹みが角度を示すようになっています。

※角度設定については、使用される方一人一人、身体状況や使用場面により異なるかと思われます。医療機関のスタッフ（お医者様、訓練士など）にご相談のうえ、ご本人にふさわしい背もたれの角度、全体の角度を設定したら、目安となるところに印をつけてください。



新リクライニング用

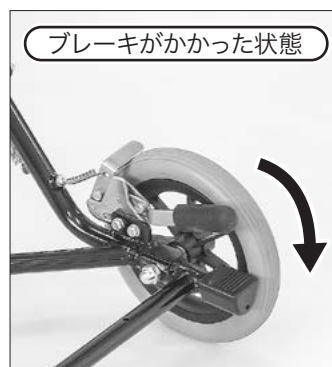


背リクライニング用

■ブレーキ

停車するとき、乗り降りるときに必ず使用してください。

ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。



ブレーキがかかった状態



ブレーキを解除した状態



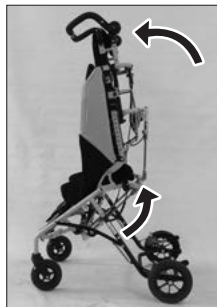
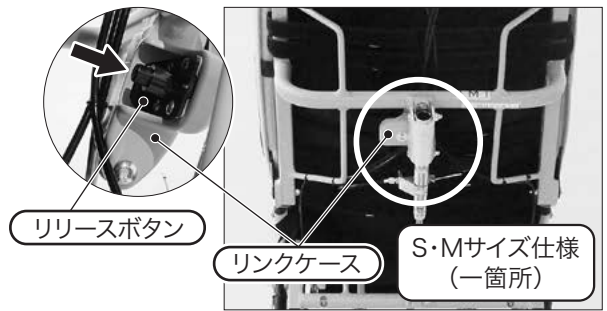
- 乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- 坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ブレーキの効きが弱く感じられる場合は停車中に動き出すことも考えられ危険です、すみやかに取り扱い業者にご相談ください。
- 車載して使用する際は、定められた位置に車いすをセットし、ブレーキをかけてから車載用の固定ベルトで車いすをしっかりと固定してください。

各部の取り扱い

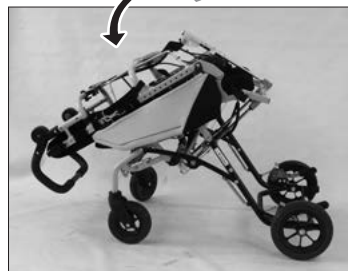
■バックサポートの折りたたみ方法(背折れ機構)

リンクケースの裏側にあるリリースボタンを押すとバックサポートが折りたたみます。S・Mサイズは背折れ機構が一箇所、L・LLサイズは二箇所あります。リリースボタンを押す前に新リンクのメカロックと背リンクのメカロックが最大まで伸びた状態になっていることを必ず確認してください。

※折りたたんでから開くときは、バックサポートを手前に持ち上げる(開く)だけで自動的に固定されます。使用前には固定されていることを必ず確認してください。



リリースボタン
を押す

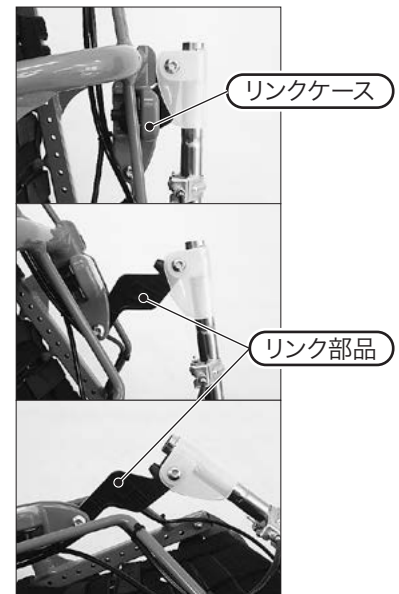


メカロックが最大まで伸びた状態



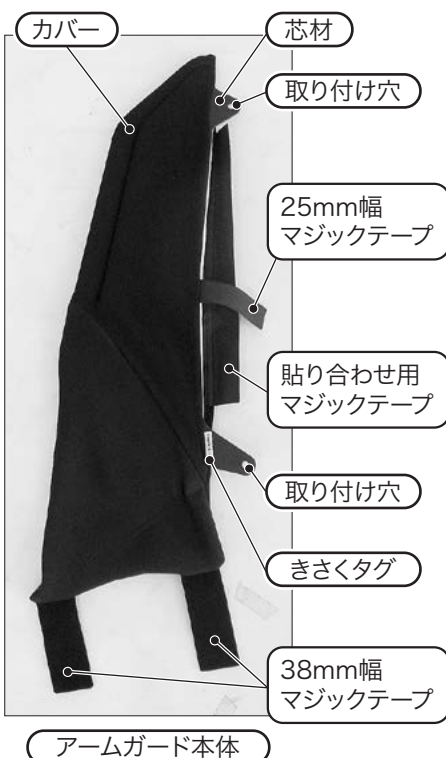
- 指をはさまないように、注意して操作してください。
- リリースボタンを押す前に新リンクのメカロックと背リンクのメカロックが最大まで伸びた状態になっていることを必ず確認してください。伸びきっていない場合は折りたためないばかりか、リンク部品(樹脂部品)やメカロックが破損する恐れがあります。
- 長期の使用にともなってリリースボタンの動きが渋くなった場合は部品の交換をおすすめします。市販の防錆潤滑スプレーなどの中にはプラスチックを劣化させるものがあります。潤滑剤を使用する場合は、ゴム・プラスチック用のものをお使いください。

●背折れ機構の動き



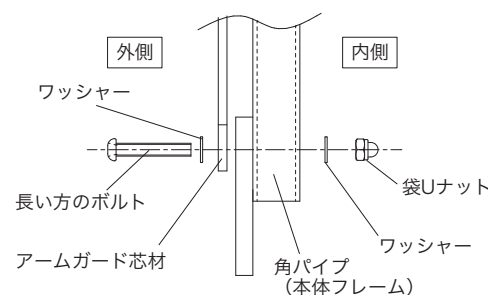
■アームガードのフレーム本体への取り付けとカバーの付け外しについて

アームガードは黒い樹脂の芯材と布とクッションで作られたカバーで構成されています。芯材を本体フレームに取り付けてから、カバーを装着してください。



●取り付け方法

- ①最初に芯材を本体フレームに取り付けます。
芯材は左右共通で裏表はありませんが、上下の向きに注意してください。
- ②芯材の上下二箇所の取り付け穴にボルトとナットとワッシャーの配列に注意して、バックサポートフレームに取り付けてください。
(締付けトルク: 3.5N・m程度)
上側: なべボルトM6×35、ワッシャー2枚、袋UナットM6
下側: なべボルトM6×40、ワッシャー2枚、袋UナットM6



本体フレームの左側を後方から見た状態の図

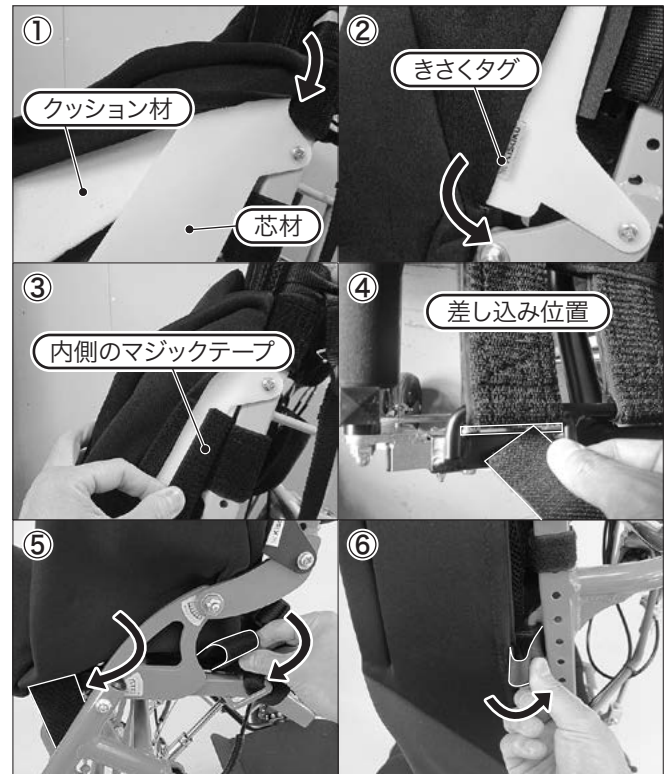


※写真ではアームガードの芯材は白ですが、実物は黒です。

各部の取り扱い

●アームガードカバーの付け外し方法

- ①カバーには左右(表・裏)があります。きさくタグが縫い付けられている面が外側で、クッション性の高い面が内側です。アームガードの芯材にカバーを取り付けます。カバーの上端を芯材の上端に引っかけるようにしてかぶせていきます。
 - ②カバーの下側を少し下に引っ張りながら芯材にかぶせていきます。カバーの奥まで芯材がまんべんなく入っていることを確認してください。
 - ③内側と外側のカバーを貼り合わせるためにカバーの後側(フレーム側)の内側にたて方向に長くついているマジックテープをフレームと芯材のすき間から手前に引き出して、外側のカバーで封をするように貼り合わせてください。
 - ④カバーの下側の前部についている38mm幅のマジックテープを前座シートのスリングカンのすき間から差し込みスリングシートの下面に貼り合わせます。貼り付け位置はマジックテープの根元とスリングシートが折り返しているところを目安にして貼り合わせてください。
 - ⑤カバー下側の後部を支点金具の内側から後方へ引き込み、後部のマジックテープも前と同様に後座シートのスリングカンのすき間を通してシート下面に貼り合わせます。
 - ⑥25mm幅のマジックテープをバックサポートのスリングシートに貼り合わせます。
- ※取り外すときは逆の手順になります。

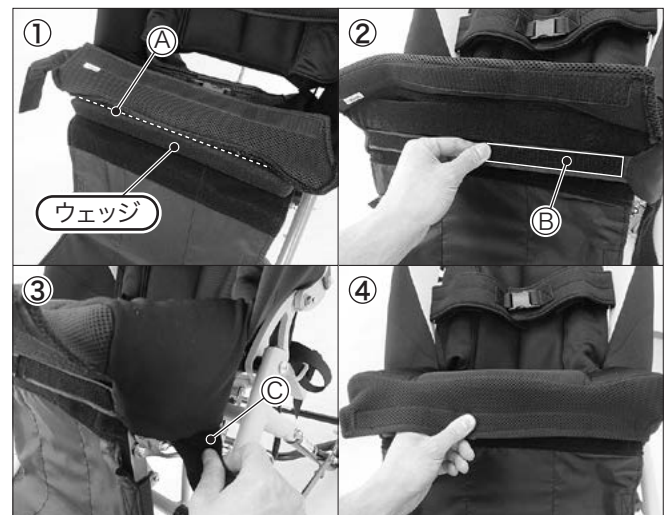


- アームガードを洗うときは、中性洗剤を使用して手洗いしてください。十分にすすいでから絞らずにタオルなどで水気を取り、形を整えて陰干ししてください。洗濯機、乾燥機は絶対に使用しないでください。
- 雨などで濡れた場合は乾いた布で水気を拭き取り、風通しのよい場所で日陰干しして乾燥させてください。

■座シート取り付け(取り外し)方法

WRBⅡの座シートは、標準タイプの座面形状とオプションの外転防止パッドタイプを付けた状態のどちらも使用できる兼用となっています。

- ①座シートが左右に片寄らないように座シートの中心とウェッジの中心を合わせるようにして、座シートの縫い合わせ①Aを座面ウェッジ前方の先端に合わせます。(ウェッジ:P10 外転防止パッドを参照)
 - ②②Bの25mm幅のマジックテープをレッグサポートの上部に貼り付けます(左右)。
 - ③③Cの50mm幅のマジックテープを座フレームのパイプを覆うようにして、座フレームの裏側のスリングシートに左右のマジックを貼り付けます。
- ※座シートは外転防止パッド付きでも覆うことができるように設計しています。そのため、標準タイプの座面形状に座シートを取り付ける場合には、外転防止パッド分の布の余裕を座フレームの下に引き込むようにして余りがでないようにマジックで貼り付けてください。
- ④④Dの座シートの裏側に縫い付けているマジックテープを②Bの25mm幅のマジックテープに貼り付けます。
- ※取り外すときは逆の手順になります。



- 座シートを洗濯するときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、日陰干しして乾燥させてください。

■バックサポート高さ調節

使用される方の成長変化に合わせて、ヘッドサポートパイプの高さ調節がおこなえます。初期設定より30mm間隔で伸ばすことができます。ボルト・ナットによる差し替え式です。

高さ調節をおこなう際は、①背シートと背スリングシート上端、分割式のセンターシートも一旦剥がしてください。②～③高さ調節をおこなった後にスリングシートと背シートを張り直してください。

高さ調節をおこなうと、日よけの高さも同時に変わります。

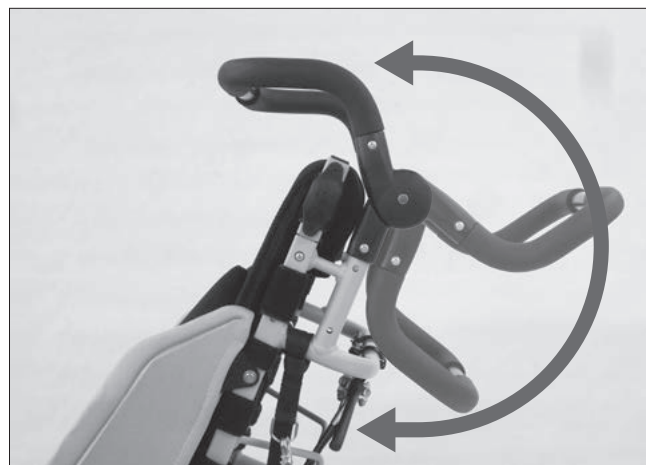


- 高さ調節をおこなう際は、必ず左右の高さを揃えてください。
- 調節をおこなった際は、ボルト、ナットにゆるみ、締め忘れがないようご注意ください。

■高さ可変押し手グリップ

バックサポートの角度によって、押しやすい高さに調節できる可変式の押し手グリップです。

押し手グリップの根元にあるダイヤルロック内側のボタンを指で押し込むとロックが解除されて、押し手グリップがフリーに動きます。押し手グリップを押しやすい高さに調整したらボタンから指を外してください。ダイヤルの最も近い刻み位置でロックがかかり、押し手グリップが固定されます。折りたたんだ際に、押し手グリップの設定を変えると折りたたみサイズをコンパクトにすることが出来ます。



- ダイヤルロックを操作し、押し手グリップの角度を変更したときは、ロックがかかって押し手グリップが固定されていることを必ず確認してください。例えば、ダイヤルロックのボタンが押し込まれたままになってロックがかかっていないと、押し手グリップが急に上がったり下がったりして危険です。
- 子供がぶら下がったりしないよう注意してください。またかばんや荷物をかけないでください。
- 高さを調整するときには、ダイヤルロックの隙間で指や皮膚をはさまないように注意して操作をおこなってください。

各部の取り扱い

■座奥行き調節とフットサポートの高さ調節

使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットサポートの高さ調節ができます。ボルト・ナットによる差し替え式です。

座奥行き調節は10mm間隔で、フットサポートの高さ調節は10mm間隔で調節できます。



- 高さ調節をおこなう際は、必ず左右の高さを揃えてください。
- 調節をおこなった際は、ボルト、ナットにゆるみ、締め忘れがないようご注意ください。

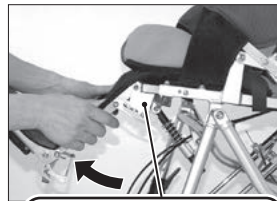


■レッグサポートのエレベーター

・上げる設定の操作

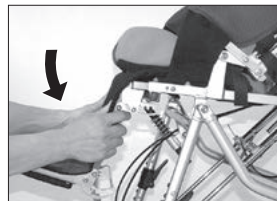
レッグサポートパイプを両手で軽く持ち上げ、左右のエレベーター金具(ノコギリ金具)を指で押し上げながらレッグサポートを上げてください。

下げきりから5段階約15度きざみで角度設定ができます。



・下げる設定の操作

レッグサポートパイプを両手で軽く持ち上げ、左右のエレベーター金具(ノコギリ金具)を指で押し上げながらレッグサポートを下げてください。



■フットサポートの角度調節

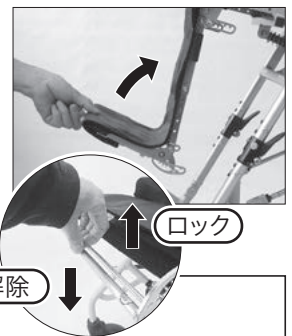
・開く設定の操作

フットサポートをかるく持ち上げ、左右のフットサポート角度可変金具(ノコギリ金具)を指で持ち上げながらフットサポートを開きます。上げきりから5段階約14度きざみで角度設定ができます。



・閉じる設定の操作

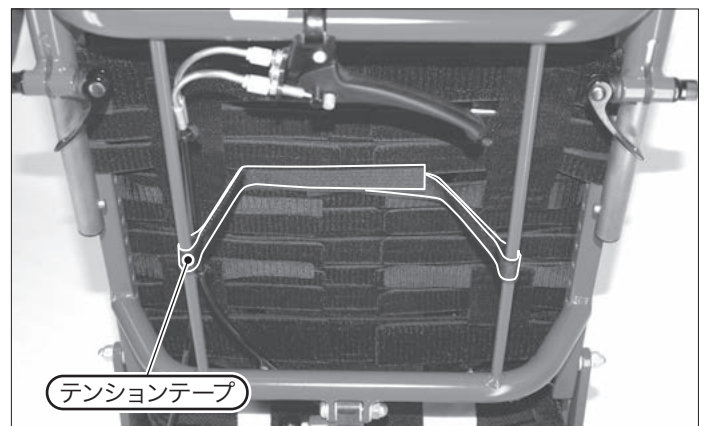
フットサポートの先端を持ち上げながら適切な角度に設定してください。フットサポートを閉じた状態でノコ金具のシャフトを持ち上げるとフットサポートの開き止めのロックがかかります。ロックを解除する場合は、シャフトを押し込んでください。



- 指をはさまないように、注意して操作してください。

■背スリングシートのテンションテープについて

WRBⅡでは、背スリングシートの余分なたわみを減少させサポートインナーパッドの支持力を向上させる目的で、背スリングシートを後方に引っ張るテンションテープを装備しています。背スリングシートの調整をおこなう際は、テンションテープを一度ゆるめて、調整後にはしっかり引き直してください。



■胸・腰ベルトの装着について

処方上必要とされたベルト類は、姿勢保持と安全のために必ず装着してください。ベルトのバックルをカチッと奥までしっかり差込んで、外れないことを確認してください。胸ベルトは、取り付け高さと長さ、腰ベルトは長さの調節ができます。



- ベルトを装着せずに走行すると、転落のおそれがあります。
- 安全のために常にベルトを装着することをおすすめします。



各部の取り扱い

■肩ベルト(胸肩ベルトセット)(オプション)

基本仕様の胸ベルトの形式に肩ベルトが付いた仕様となります。肩ベルトは、頭部や体幹部が前のめりに屈曲してくる時に姿勢を整えるために用います。肩ベルトと胸ベルトの接続はバックル式とマジック式の2種類があります。

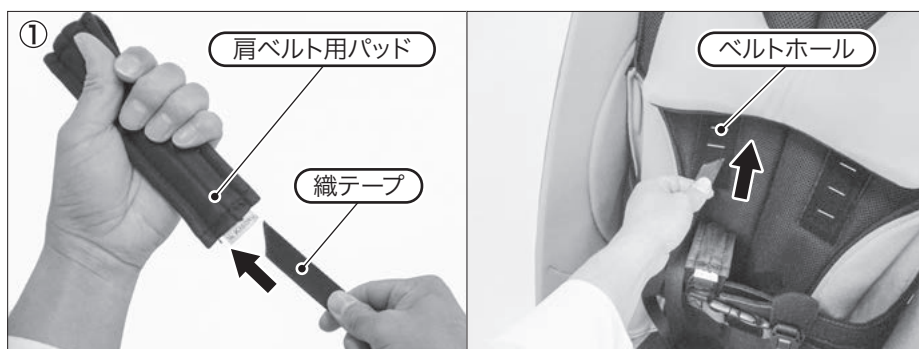
ベルトホルルの位置で体格や成長に合わせて肩ベルトの高さ調節がおこなえます。



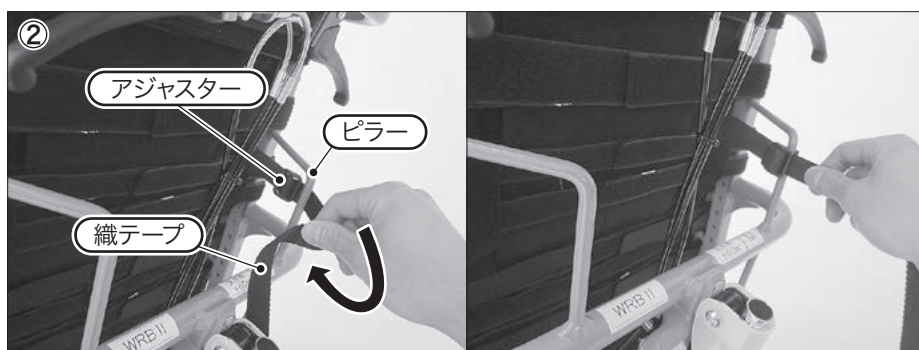
※写真の肩ベルトはバックル式になります。

〈取り付け方法〉

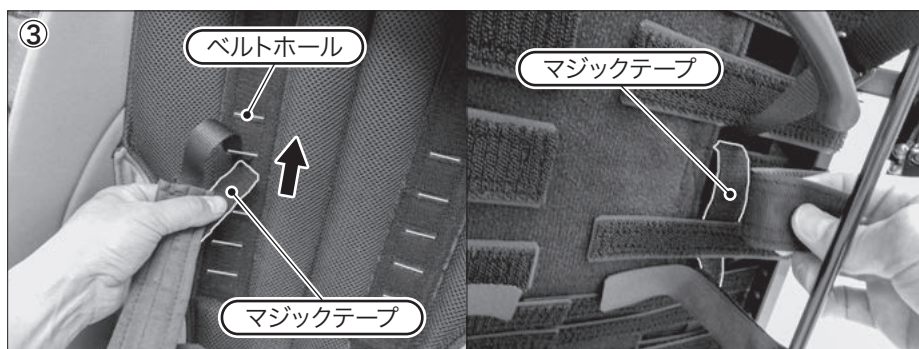
- ①肩ベルト用パッドに織テープを通し、最も肩に近い高さのベルトホルルに織テープを通してください。



- ②バックサポート裏についているピラーに織テープを折り返してアジャスターに通してください。このアジャスターの部分で長さ調節がおこなえます。調整後にはピラーで折り返してしっかり引き直してください。



- ③肩ベルト用パッドが肩に適切に添う位置になるようパッドから出ているマジックテープをベルトホルルに通して、背シート裏面のスリングシートに貼り付けて位置調整を行ってください。



- 肩ベルトのパッドは、決して外さないでください。ベルト本体の織テープのみでは、材質が硬質のためパッドを装着して当たりを和らげる目的と機能があります。
- 頭が一方向に傾いて首が肩ベルトに擦れてしまうような場合は、姿勢そのものの再調整が必要なことも考えられます。無理に使用を続けずに医療機関にご相談ください。

各部の取り扱い

■トランクサポートベルト(I型、II型オプション)

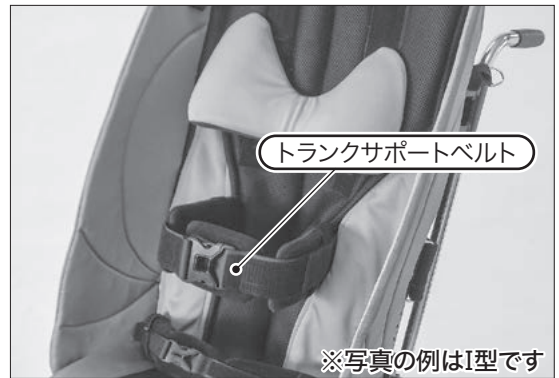
身体により近い背シートのダブルファスナーから取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。

長さを取り付け高さの調節がおこなえます。(マジック式)

取り付けの際、高さを合わせる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるところまで上下からしっかりとじてください。

正面のバックルをカチッと奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

I型は、SS、S、M、ML、L、LLの6サイズ、II型はS、M、Lの3サイズです。



■外転防止パッド(オプション)

外転防止パッドは、脚の開きを支えるクッションです。マジックテープで貼り付ける構造なので取り外しが可能で、左右の位置調整(脚の開き加減)ができます。また中のクッションを取り出して、多少の形状調整がおこなえます。座シートは、標準タイプの座面形状とオプションの外転防止パッドタイプのどちらでも使用できる兼用のものとなっています。座シートの取り付けはP6を参照してください。



- カバーを洗濯する際は、必ず中のウレタンクッションを取り出してください。
- 座シート本体を洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、日陰干しして乾燥させてください。

■介助ブレーキ(オプション)

走行中や坂道でスピードを加減するブレーキです。

ブレーキレバーは、両方同時に均等な力で握ってください。片側だけ強く握ると、車いすの向きが急に変わってしまい危険です。



- 介助ブレーキの効きが弱くなってきたと感じたときは、ブレーキ本体にあるマイクロアジャスターなどでワイヤーの引き調整をおこなってください。

■転倒防止装置(オプション)

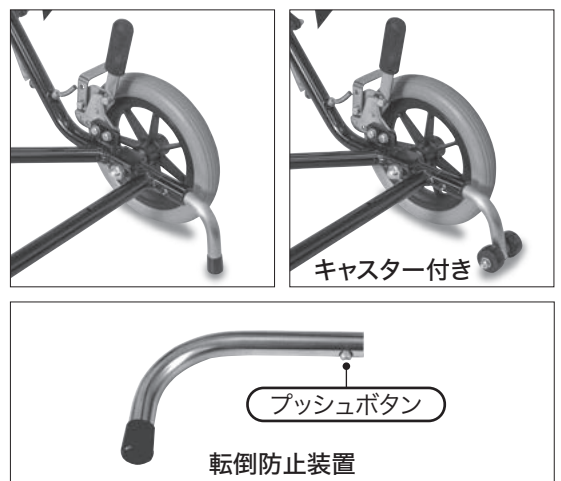
使用されている環境条件(坂道や傾斜があるなど)や、またはケアポジションで使用する際にリクライニングしたときの後方安定性に不安定な様子がみられるときは、転倒防止装置の取り付けをおすすめします。

〈取り付け方法〉

ティッピングゴムを外し転倒防止装置を差し込んでください。

プッシュボタンを押しながら、パイプに差し込みます。プッシュボタンがパイプ下側にあけられた穴に飛び出て固定されます。

取り付けた後は、転倒防止装置が確実に固定されていることを必ず確認してください。



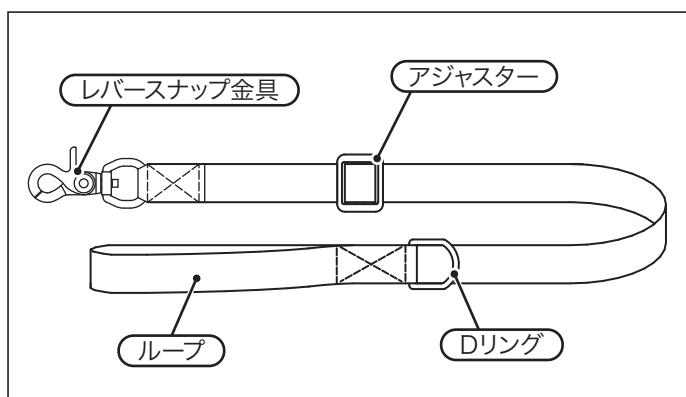
- 転倒防止装置は後方への安全を確保するための装備です。そのためティッピングによる段差越えは困難になります。段差を越えるときは、段差の少ないところを探るか、後ろ向きに後輪から上がるようにしてください。
- 転倒防止装置と地面の間で足などをはさまないように注意してください。

開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはWRBⅡを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

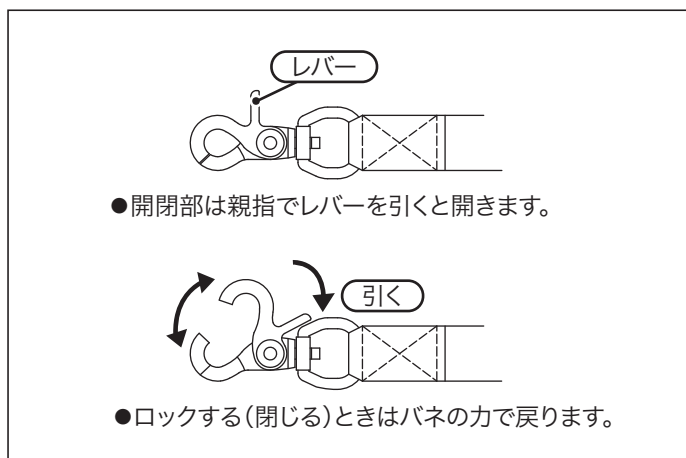
■開き防止ベルト・各部の名称

- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をDリングにかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。
- 折りたたんだときの厚みによっては、アジャスターでベルトの長さを調節してください。



■レバースナップ金具の取り扱い

レバースナップ金具をDリングにかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを親指で引いて開いてください。開いたままDリングにかけたら親指を離してください。自動的に閉じてロックがかかります。

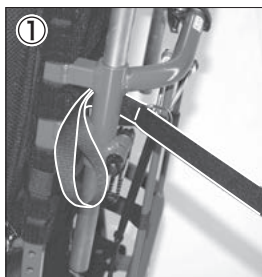


- レバースナップ金具の開閉部で指などはさまないように注意してください。
- Dリングにかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。

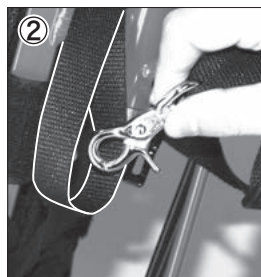
■バギー本体への取り付け方法

開き防止ベルトは、左右どちらかのバックサポートパイプに取り付けます。(出荷時は左側に取り付けています)

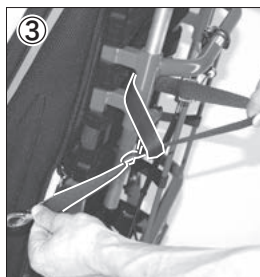
取り付け位置は上からおよそ1/3を目安にしてください。バギーを折りたたんだときに、開き防止ベルトを後足フレームの車輪付近でしっかり巻くことができます。



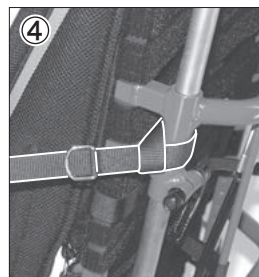
Dリングが正面になるようにループを背パイプ内側からバックサポートのスリット(またはスリングの間)に通します。



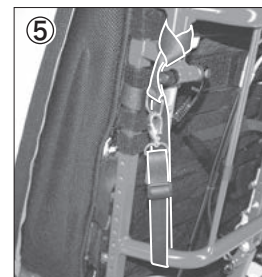
ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。



ベルトがねじれないように注意して通してください。



ループのところに余分なあまりやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。



通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をDリングにかけてください。

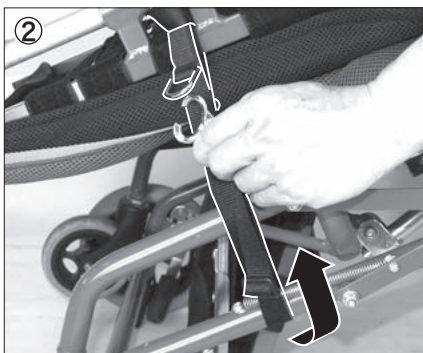


- 開き防止ベルトに搭乗者が手指をからませたり、また周辺の人や物にひっかからないように注意してください。
- メンテナンスやシートの洗濯などにより開き防止ベルトを取り外したときは、必ず取り付け方法の説明にそって取り付け直してください。取り付けたら、折りたたみ操作をおこないレバースナップ金具がDリングにかかることを必ず確認してください。

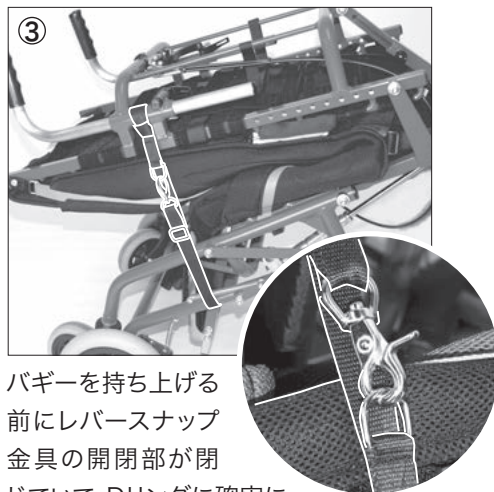
開き防止ベルトの使用方法



折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトを後足フレームの内側へ通します。ベルトがねじれないように注意してください。



後足フレームを巻くようにして折り返し、レバースナップ金具を操作してDリングにかけてください。



バギーを持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、Dリングに確実にかかっていることを確認してください。



- 開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などはさまないように注意してお取り扱いください。
- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- 開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態（ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど）では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- 車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

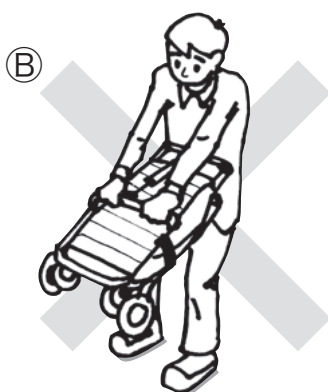
■車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

図①のように、後輪のついている後足フレームをつかんで、下からバギー全体をかかえるようにして持ち上げてください。



○後足フレームを持ち、全体をかかえてください。

図②③のように、バックサポートのパイプのみ、もしくは前輪キャスターのついている前足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。



×背パイプのみを持っている。



×前足フレームのみを持っている。



- 自動車のトランク（荷室）に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

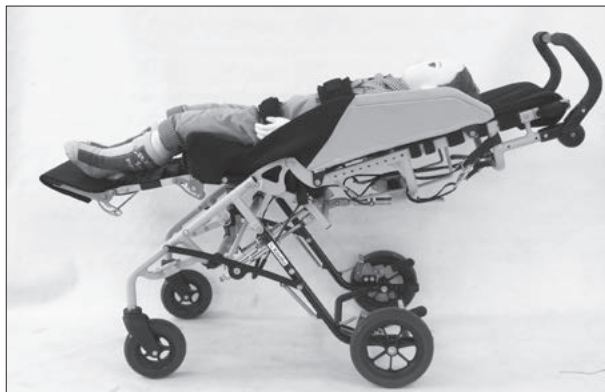
ケアポジションについて

排泄やお着替えなどのケアを想定し、WRBⅡはバックサポートやシートフレーム（前座）をいろいろな角度に設定することができます。座位に合わせて20°で傾斜している前座を5°に下げることによってケアがスムーズにおこなえるようになっています。さまざまな使用環境や状況があると思いますが、ケアポジションとして2つのパターンをご説明いたします。

パターン1（膝から先を下げた状態）



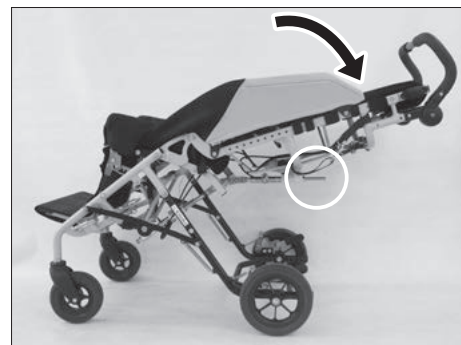
パターン2（膝から先を伸ばした状態）



■ケアポジションのセッティング方法

※①～④まではパターン1も2も同じ手順です。

- ①フットブレーキを左右ともかけてください。（P4ブレーキ参照）
- ②転倒防止装置を装備している場合は、必ず転倒防止が機能するようにセットしてください。（P10転倒防止装置参照）
- ③新リクレバーを操作して、後座の角度設定を行います。前座と一直線状になるように合わせてください。ピンク色の角度計を目安に一つ目の目盛りから二つ目の目盛りあたりで合わせてください。
- ④背リクレバーを操作してバックサポートを最大に開きます。
背リクをリクライニングすると、背リクのメカロックの中棒（インナーシャフト）が後方に突き出てきます。アンダートレイなどに荷物を載せている場合は、背リクのメカロック本体やインナーシャフト類が吸引器などに接触しないように注意しながら操作してください。

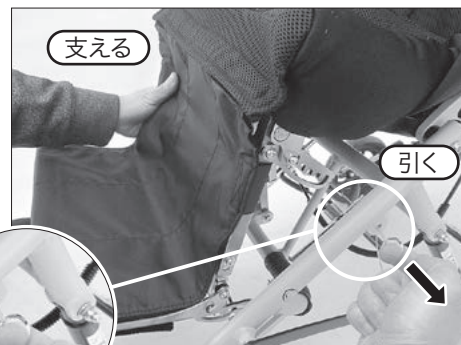


- 背リクをリクライニングすると、背リクのメカロックの中棒（インナーシャフト）が後方に突き出てくるので、この中棒に手や足をぶつけたりしないように注意してください。
- 特に小さなお子様がいる場合は、バックサポートの後方にいないことを必ず確認して操作してください。

【パターン1 膝から先を下げた状態にする場合】

膝を下げたまま前座を下げます。

- ⑤前座からレッグサポート上にかかる下肢の重さを片方の手でしっかりと支えます。
- ⑥前足フレーム左側の横のCPリング（ケアポジションリング）を右手で真横に外側へ引いて前座のロックを解除します。
- ⑦ゆっくりと前座を下におろしてください。



- CPリングは、前座の角度をケアポジションとして設定するときのみ操作してください。
- 下肢の重さを支えることなく、CPリングのみ引くようなことは決してしないでください。前座からレッグサポートまで急に下がる可能性があります。乗っているお子様がおどろいたり、周囲の人の思わぬケガになることも考えられます。



【パターン2 膝から先を伸ばした状態にする場合】

前座を下げる前に膝から先を伸ばします。

⑤フットサポートを開きます。

(P7フットサポートの角度調節参照)

⑥レッグサポートを上げてください。

(P7レッグサポートのエレベーター参照)

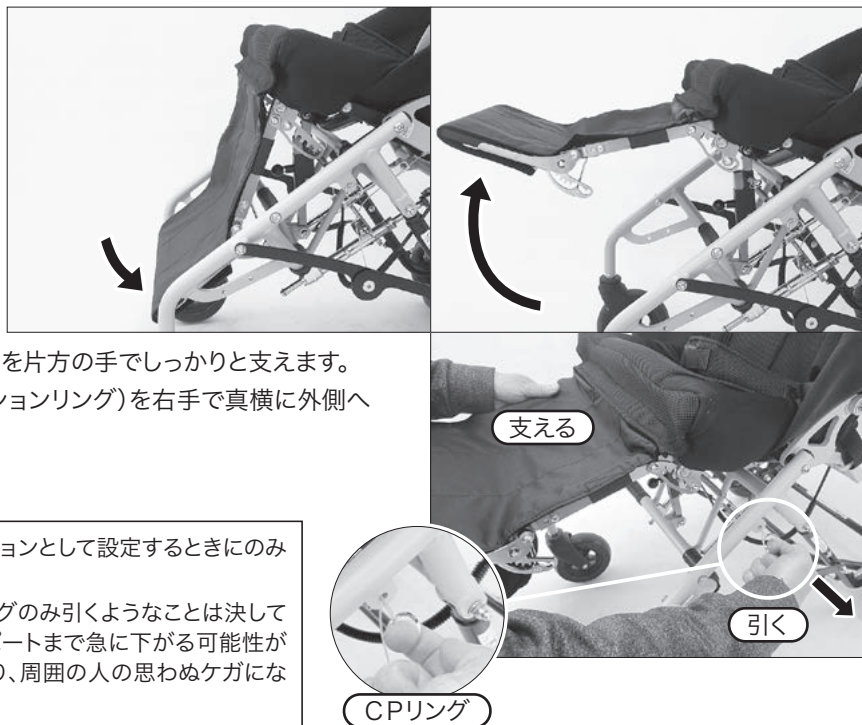
⑦前座からレッグサポート上にかかる下肢の重さを片方の手でしっかりと支えます。

⑧前足フレーム左側の横のCPリング(ケアポジションリング)を右手で真横に外側へ引いて前座のロックを解除します。

⑨ゆっくりと前座を下におろしてください。



- CPリングは、前座の角度をケアポジションとして設定するときのみ操作してください。
- 下肢の重さを支えることなく、CPリングのみ引くようなことは決してしないでください。前座からレッグサポートまで急に下がる可能性があります。乗っているお子様がおどろいたり、周囲の人の思わぬケガになることも考えられます。



■座位姿勢へ戻す方法

通常使用時(20度)に戻すときは、両手でレッグサポートを持ち上げていくと「カッチン」と音が鳴り、20度の位置で自動的にロックがかかります。

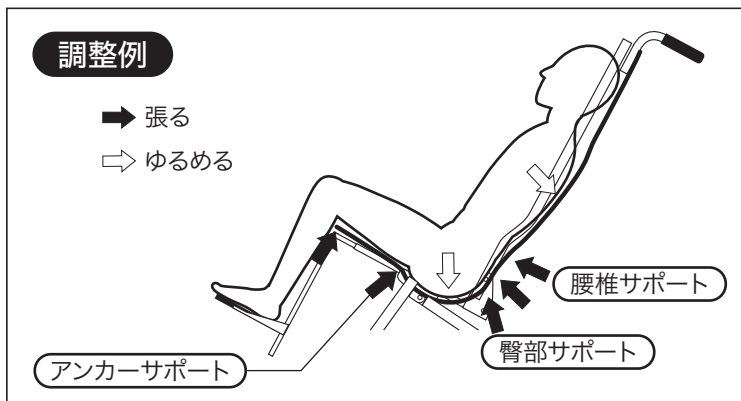
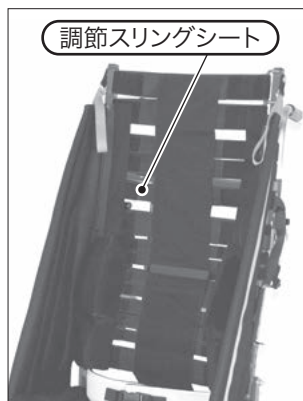
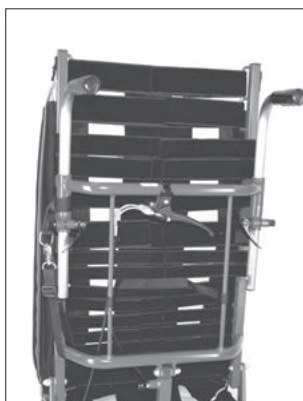
※元の座位姿勢に戻す際は逆の手順になります。

この2つのパターン以外にもお客様がケアしやすい角度設定にして安全にお使いいただければと存じます。



- 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- 使用される方の体重によってはエレベーターや前座角度の変更が難しい場合がありますので、大人一人ではなく、大人二人で角度変更をおこなってください。
- 指をはさまないように、注意して操作してください。
- 転倒防止装置を装備している場合は、必ず転倒防止が機能するようにセットしてください。
- 前座角度5度設定は排泄やお着替えの時のみ使用してください。条件によってはレッグサポート部が本体フレームやメカロックと干渉する場合があります。この状態で走行すると大変危険です。
- 走行する際には、必ず前座の角度を20度に戻してください。
- ベルト類を外した際には、本人から目を離さないでください。
- 子供には操作させないでください。

調節スリングシートについて



帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。矢状面に加え、水平面の調整もすることが可能です。よりこまかく調整がおこなえるようスリングベルトの幅も細く、背スリングを2分割しています。



●長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

バックサポートは、①骨盤の前後の傾き(バックサポート下部)②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部)③腰部の支え(バックサポート腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中の中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。

座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起こにくくするのが一般的です。

体幹サポートインナーパッドの取り扱いについて

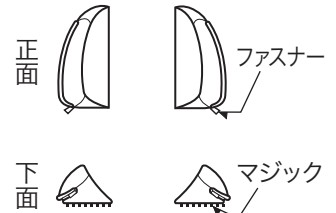
調節スリングシートの張り具合で、骨盤が前方に滑り出しにくくなるように、また体幹部をバックサポートに預けていられるように矢状面のサポートを調節します。調節スリングシートの水平面でのカーブの形状により、側方からのサポートがある程度得られますが、側方からのサポートを追加する目的で体幹サポートインナーパッドを用います。

体幹サポートインナーパッドは、右記のように4個セットになっています。調節スリングシートにインナーパッドを取り付けて、その上から背シートを取り付けて使用します。

インナーパッドには、ロータイプとハイタイプがあります。ハイタイプは、裏面のマジック(カタ)の色がグレーになります。(ロータイプは黒です。)

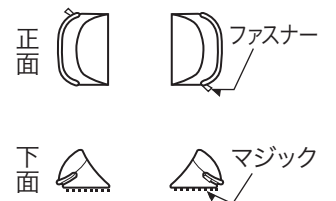
体幹パッド (2個)

- 左、右別
- ファスナーがついている方が外側、先端が細い方が上側です。
- マジック面がスリングシート側です。



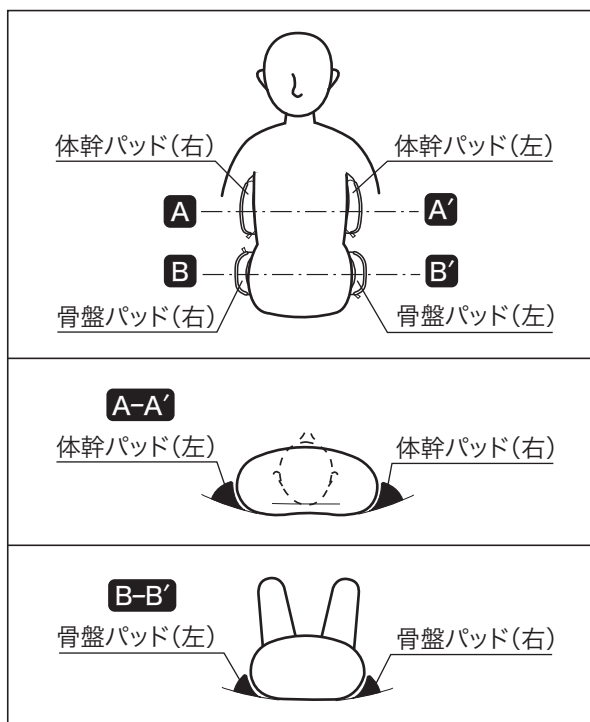
骨盤パッド (2個)

- 左、右共通
- ファスナーがついている方が外側です。
- マジック面がスリングシート側です。



1 調節スリングシートの張り調節を先におこないます。

2 体幹パッド、骨盤パッドを本人の状況・体型に合わせて、またサポートの方向に配慮して調節スリングシートに取り付けます。



体幹パッド

- 側弯などの影響で一方に体が傾く場合などには、取り付け位置・高さが左右非対称になることもあります。
- ろっ骨下部から胸郭の重みを受け止めるように体幹部の側方をサポートし、体幹部の横倒れや水平面方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと胸郭とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

骨盤パッド

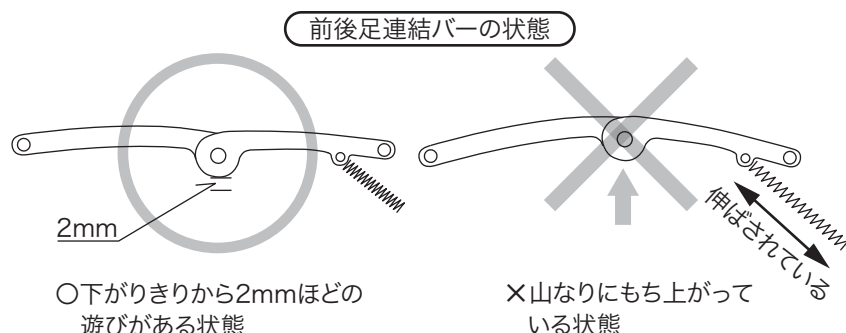
- 骨盤部の中央あたりの高さで、骨盤の傾きなどにも注意して、骨盤部からの横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと骨盤部とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

3 必要に応じてインナーパッドの形状を変更調節します。

- パッドはファスナー式になっています。必要に応じ、中のクッションを取り出し、クッションを削るなどして形状の調整をしてください。

前後足連結バー引っぱりバネについて

本製品は、使用(走行)中に、下フレーム(前・後足フレーム)が折りたたまないように、前後足連結バーをバネで引く構造になっています。このバネは、安全のために重要な部品であるため、簡単に外れてしまわないよう、十分に注意して組み立てておりますが、使用期間中のバネそのものの変化や何かに引っかけてしまったなどにより、バネが伸びきっていたり、外れたり、または折れたりすることが考えられます。使用前には、バネの状態(伸び過ぎや破損)とバネが外れていないことを確認してください。バネの破損などに気付いたときは、すぐに取り扱い業者にご連絡ください。



以下の5点について、点検してください。

☐ 前後足の連結バーの中心が、ちゃんと下がりきっているか？

(前後足連結バーがしっかりとつばた状態になっていることを必ず確認してください。
《前足、後足フレームを前後から押して連結バーの中心部が下がること。》
中心部が上に持ち上がっていると、前後足フレームが折りたたんでしまうため大変危険です。)

☐ バネは2本とも、きちんとしていているか？

☐ バネの取り付け部分が伸びて、はずれそうになっていないか？

☐ バネが部分的に伸びきっていないか？

☐ 前後足連結バーを指で持ち上げたとき、バネが下方方向にしっかり引っぱっているか？

❗ 前後足連結バーを持ち上げるときは、中心より外側の部分を扱ってください。中心付近は指をはさむおそれがあります。

■WRBⅡ 取り扱いに関する禁止事項



WRBⅡの足回りフレームは、走行中に折りたたまないように前後足連結バーによってロックされています。左の写真のように座面後部フレームを水平よりやや起こしたあたりから、ロックが解除された状態になり始めます。前後足連結バーが山なりにもち上がっている状態は、完全にロックが解除されていることになりますので決してこの状態で走行しないでください。大変危険です。



● 座面後部フレームを水平よりも起こした状態での使用は絶対にお止めください。

❗ 必ずお読みください

ロックが解除されかけている状態で走行すると、前輪が段差に引っかかったときに(左の写真のように)前足から急に足回りが折りたたむ動作により、その勢いのまま前方に転倒する恐れがあり、大変危険です。走行前に座面後部フレームが水平より下がっていることを確認してください。

(上図: 前後足連結バーの状態(正常)・・・下がりきりから2mmほどの遊びがある状態)





- 折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないように注意して操作をおこなってください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- 傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- 折りたたみおよび開き操作時は、床面等を傷つけることがありますので十分に注意して取り扱ってください。

折りたたみ方

1



フットブレーキを(左・右)かけてください。

2



ロック

レッグサポートを最大まで上げて、フットサポートをたたんでください。フットサポートのノコ金具のシャフトを持ち上げるとフットサポートの開き止めのロックがかかります。

3



ボールピン

前座フレームを手でささえながら座下ロックのボールピンを手前に引くと解除され、前座とフットサポートが下がります。

4



押し手グリップを前方へ最大に起こしてください。新リクレバーを握り、新方式リクライニングを止まるところまで起こしてください。

必ず手順に従って折りたたみ操作をおこなってください!
手順を誤るとコンパクトに折りたためなくなります。



手ばさみ注意!



- ③、④の手順においては、必ずメカロックが止まるところまでおこなってください。操作を完結させずに、操作の途中で無理に折りたたみをおこなうと背折れ機構が破損する可能性があります。

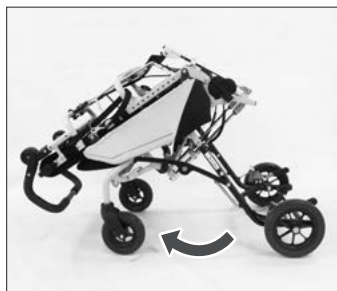
開き方

1



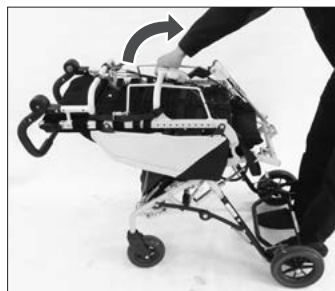
開き防止ベルトを外してください。
注)開き防止ベルトはレバースナップ式となっています。

2



前足と後足を開いてください。

3



バックサポートを開きます。このときには必ず「開く時はここをもつ」シールのパイプをつかんでください。背折れ機構のラッチが自動的にロックされます。

4



新リクレバーを握り、後座フレームを下げてください。次に背リクレバーを握り、バックサポートを倒してください。(乗せやすい適切な角度に設定してください。)



手ばさみ注意!

必ず手順に従って開き操作をおこなってください!
手順を誤ると部品がフレームに引っかかるなどして、開かなくなることがあります。



- 使用前には各部のロックがかかっていることを必ず確認してください。



- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、レバースナップ金具がDリングに確実にかかっていることを確認してください。
- 開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
- 開き防止ベルトの取り扱いについては、11ページ、12ページを参照してください。

5



背リクレバーを握り、バックサポートが止まるところまで起こしてください。

6



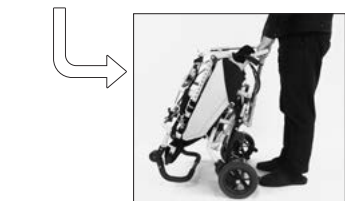
バックサポートの裏にある背折れ機構のリリースボタン※を押して、バックサポートをたたんでください。

※リリースボタン
S・M: 1箇所、L・LL: 2箇所



手ばさみ注意！

7



座面後部のパイプを持ち、斜め後方へ(矢印の方向)引き上げてください。
下フレーム(前足)が後方にたたまれます。

8



背フレームについている開き防止ベルトで背・後足を固定してください。

注)開き防止ベルトはレバースナップ式となっています。

5



レッグサポートパイプをつかんで座下ロックが「カッチン」と音がするところまで持ち上げてください。レッグサポートとともに前座フレームが上がり、座下ロックで定位置に固定されます。座下ロックが確実に固定されていることを必ず確認してください。

6



レッグサポートのノコ金具を操作して使用する角度まで開いてください。

7



ロック解除

フットサポートのノコ金具のシャフトを押し込んでロックを解除してください。そして、フットサポートを開いてください。

8



開き防止ベルトの金具がぶらぶらしないようにDリングにかけてください。新方式リクライニング及び背リクライニングを適切な角度に調節してください。押し手グリップを使いやすい位置に合わせてご使用ください。



手ばさみ注意！



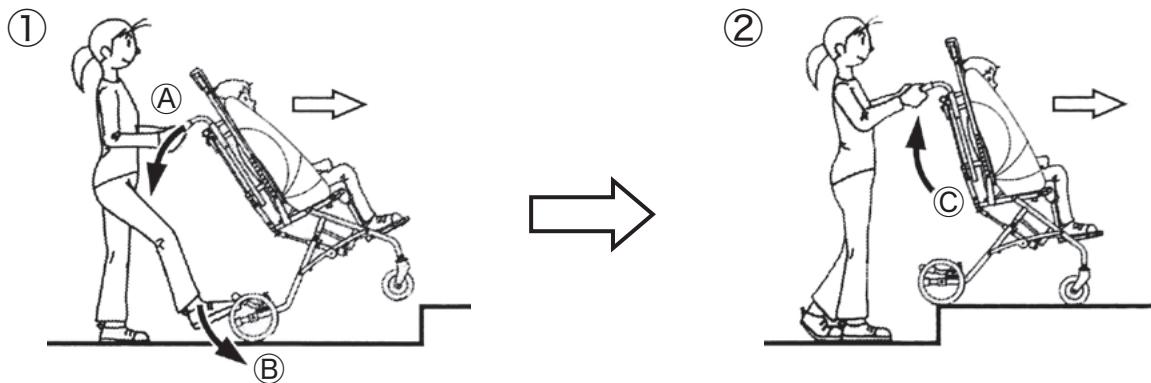
手ばさみ注意！



手ばさみ注意！

車いすの取り扱い

段差越えの仕方



①前輪が段差の直前にきたら

① 両手で押し手グリップを手前にひきながら…

② ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるのでそのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

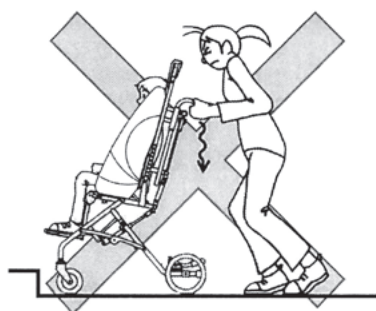
②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

③ 押し手グリップを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。



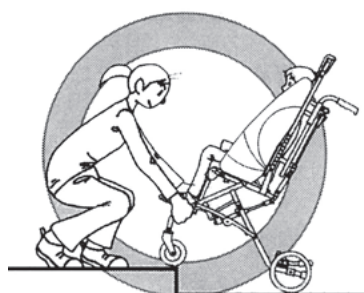
●絶対に勢いをつけて乗り越えようとししないでください！
(前方転倒や乗っている方の転落、車いすの破損などのおそれがあります。)

❌ 押し手グリップだけでの前輪上げは禁止！



ティッピングバーを利用せずに押し手だけの操作で無理に前輪を上げようとすると車いすが破損するおそれがあります。必ず押し手とティッピングバーの両方を利用してください。

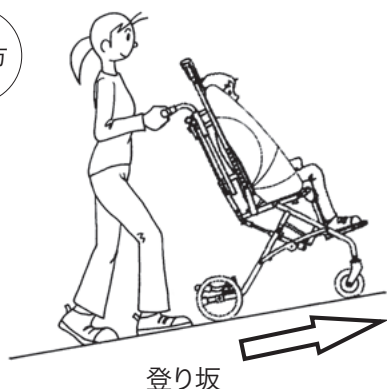
後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる



リクライニング車などで後輪位置がより後方にある場合は、押し手とティッピングバーの操作での段差越えは困難な場合があり、無理をすると車いすが破損することがあります。そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

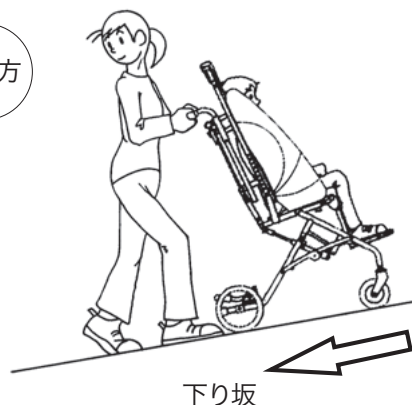
坂道での操作について

登り方



登り坂

下り方



下り坂

坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きに進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。

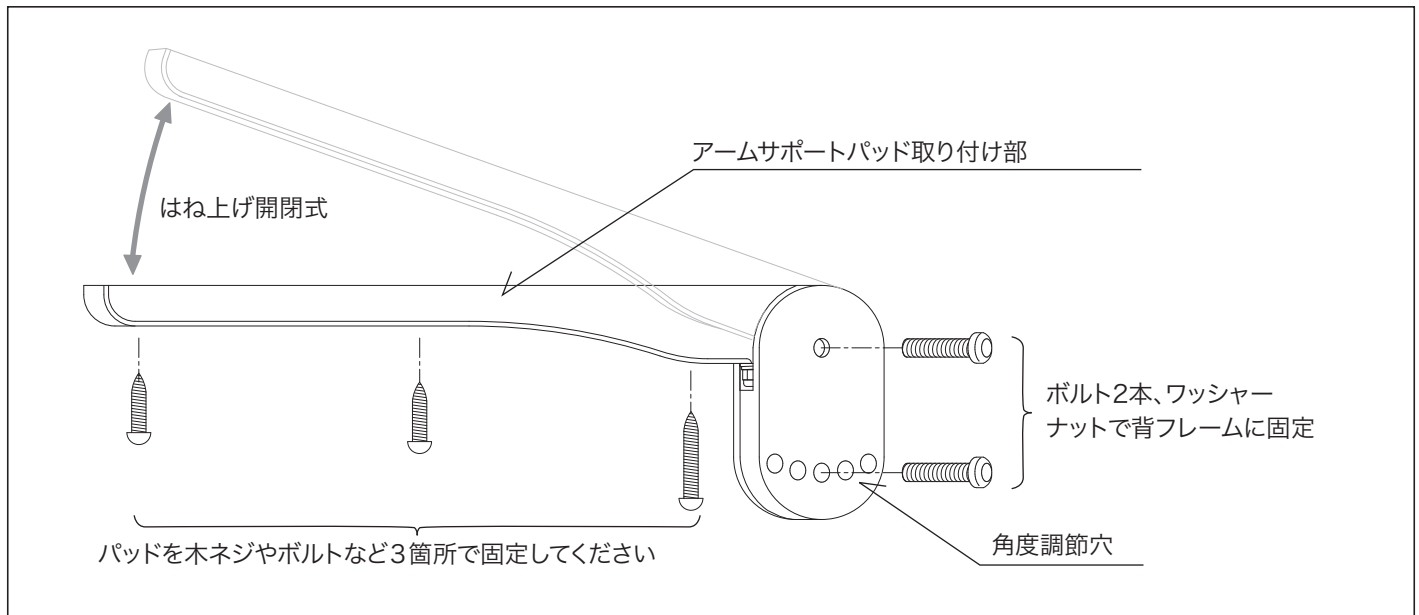


●押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

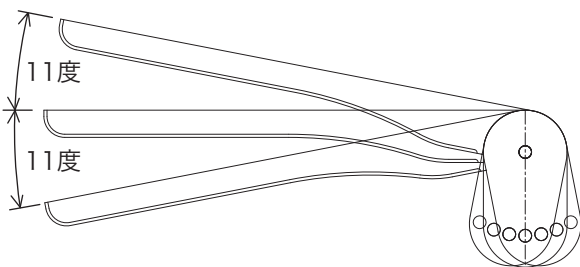
アームサポート金具の取り扱い

当社製の車いすや姿勢保持装置に取り付けることができる、はね上げ開閉式のアームサポート金具です。

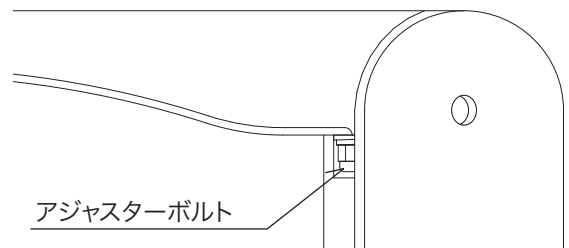
側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることにより移乗の負担を軽減することができます。また、背フレームの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。



■角度調節穴



下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階ずつ11度刻みで角度が変更できます。



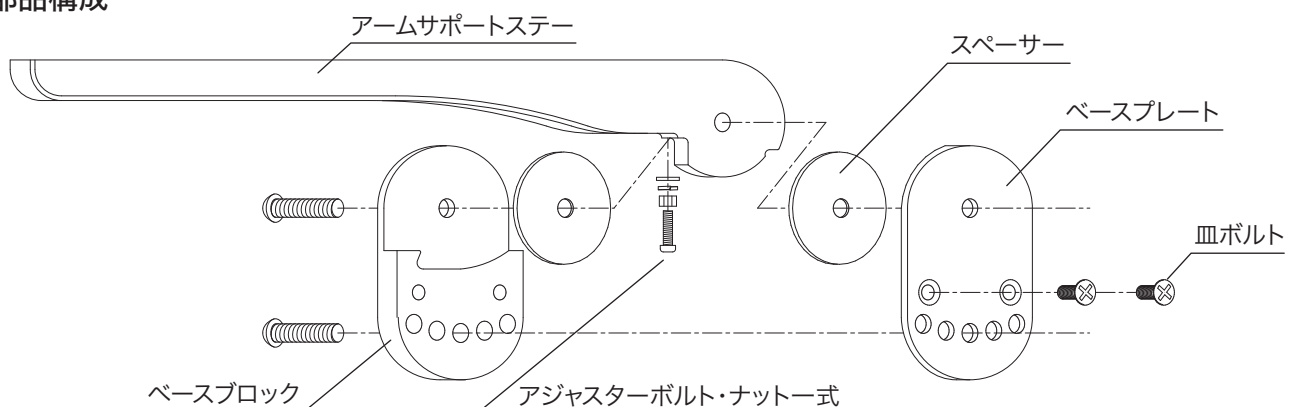
アジャスターボルトは基本的に左右の平行を調整するためのものですが、角度の微調整も可能です。

※この部分に指やものがはさまらないように注意してください。

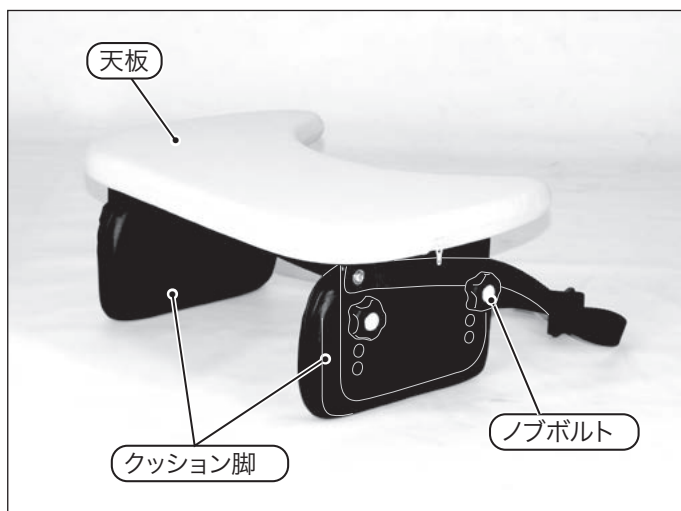


- 必ずアームサポートパッド(肘あて)を取り付けて使用してください。
金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などでけがを負うおそれがあり危険です。

■部品構成

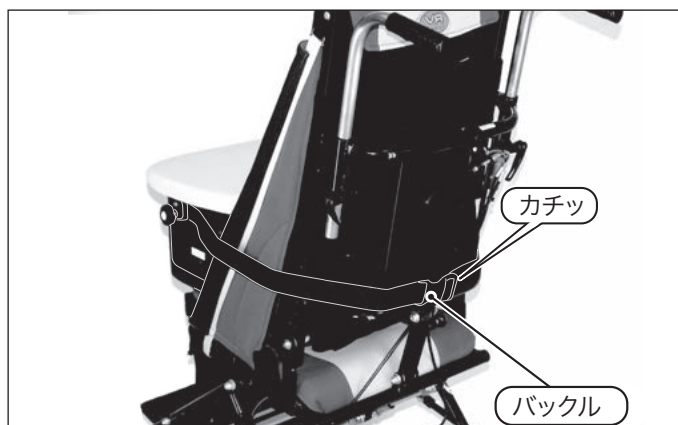


WRB II 用テーブル



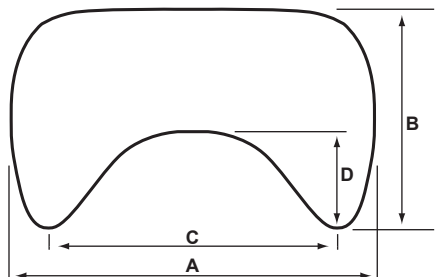
- 腕の重さを支えて身体が側方へ傾かないよう、または自ら肘をついて（前腕部を支持面に）脊柱を伸展するなど、姿勢保持を目的としたクッションテーブルです。このテーブルはオプション品です。※S、M、Lサイズのみ
- 天板の表面はクッション張り（ビニールレザーカバー仕上げ）で、身体の部分をかわすようにカットアウトしています。
- 成長したときや前腕を受ける角度に対しては、4個のノブボルトの取付け位置を変えることで、テーブルの高さ・角度を変更することができます。
- 外転パッドやモールド座面を選択した場合は、テーブルの脚部が低くなるため、高さ調節範囲は減少します。

■取付け方法



テーブルをWRB IIの座面上に置いてください。

取り付けベルトをWRB IIの背面にまわし、バックルで「カチッ」と確実に装着してください。（車載使用時を除く）

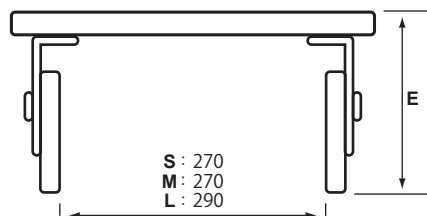


天板

（天板厚40mm）

	A	B	C	D
Sサイズ	435	320	330	120
Mサイズ	435	320	330	120
Lサイズ	475	340	355	135

（単位:mm）



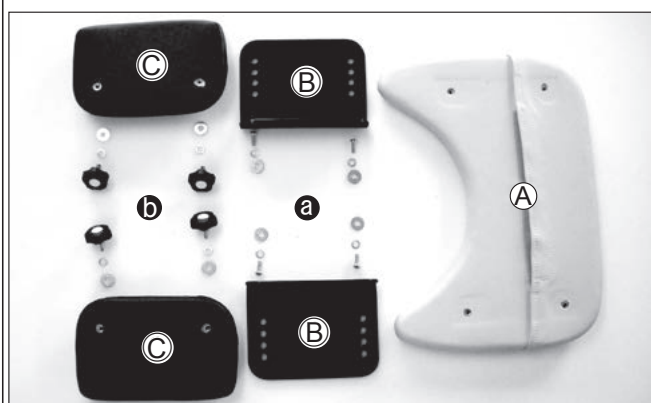
脚部

- 高さ調節付（ノブボルト）

	脚基本タイプ E（15mmピッチ）	脚ロータイプ E（15mmピッチ）
Sサイズ	180～225	150～195
Mサイズ	210～270	170～230
Lサイズ	240～315	215～290

（単位:mm）

■セット内容



①天板1枚

③クッション脚（2枚）

②脚高さ調整板2枚(樹脂製)

④取り付けビスセット

小ネジ（M6） 4本
バネワッシャー 4個
平ワッシャー 4個

⑤取り付けノブセット

ノブボルト（M6） 4本
バネワッシャー 4個
平ワッシャー 4個

○取り付けベルト
（バックル式） 1本

※写真にはありませんが、脚高さ調整板に付いています。

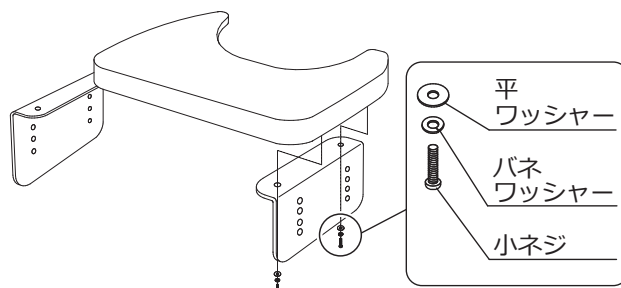
■組み立て方

①脚高さ調整板の取り付け

●L型の脚高さ調整板を天板の裏面に取り付けます。図のようにL型の長い面がテーブルの外側になります。ワッシャーをセットした小ネジをL型の短い面にある二つの穴に通し、天板の裏面側の穴に仕込んである埋め込みナットに固定してください。最初はドライバーを使わずに手で小ネジを回し、ネジの先端が埋め込みナットに正しくかみ合った感触を確かめてください。※1一つ目の小ネジが正しくかみ合ったら、2本目の小ネジも手回しで正しくかみ合わせてください。最後にプラスドライバー（3番）を使用し、両方の小ネジが脚高さ調整板に密着するまで締め込んでください。※2

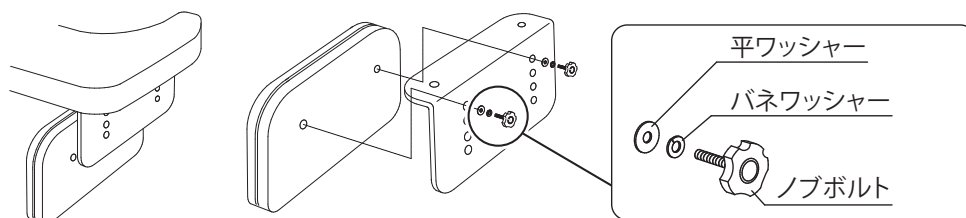
※1埋め込みナットは小ネジの入り具合を目視できないため、最初からドライバーを使って小ネジを回すと傾いて噛み込んでしまいがちです。斜めに入ってしまった小ネジを締め込んでも脚高さ調整板は固定できません。さらに無理をして強く回した場合、埋め込みナットの固定が外れて空回りし、使用できなくなることがあります。

※2一つ目の小ネジを先に完全に締めてしまった場合、二つ目の小ネジを埋め込みナットに合わせるのが極めて難しくなります。



②クッション脚の取り付け

●天板に取り付けた脚高さ調整板の内側面にクッション脚を取り付けます。クッション脚は角が丸くなっている側が上になりますので上下の向きに注意してください。図のようにバネワッシャーと平ワッシャーをノブボルトにセットし、外側から脚高さ調整板の穴を通してクッション脚の埋め込みナットにかみ合わせてください。小ネジのときと同様に2つのノブボルトのネジ先端が正しく入った感触を確かめてからそれぞれを最後まで締め込んでください。脚高さ調整穴のノブボルト取り付け位置をずらすことで、天板に傾斜をつけることができます。



- 火気に近づけないで下さい。燃えたり、熱くなって火傷するおそれがあります。
- 直射日光下では表面が熱くなるおそれがあります。火傷などに十分ご注意ください。
- 踏み台や腰掛として使用しないでください。本機が破壊したり、バランスをくずして転倒するなどしてけがをするおそれがあります。
- 身体の前方に置かれるクッションテーブルは、車載時に、急ブレーキで使用者が前方へ飛び出しかけた場合、腹部を圧迫してしまうリスクも考えられます。ご本人の姿勢を安定させる為に必要不可欠となるケースでは、クッションテーブルの取り付けベルトは使用せず座面に載せるだけの設置にしてください。アクシデントの際に、テーブルは前方に飛び出すことになりますが、腹部の圧迫を避けることができます。飛び出したテーブルが同乗者を直撃しないように、車椅子のすぐ前の席はできるだけ空けておくなどの注意をお願いします。

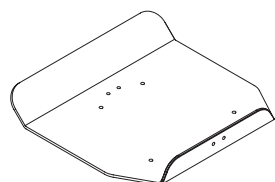
アンダートレイの取扱いについて

アンダートレイは、身の回り品や吸引器などを搭載するための台です。アンダートレイを装着したまま、バギー本体を折りたたむことができます。

搭載物をベルト等で固定した方が良い場合は、前後2箇所ずつ空いている穴を利用してください。

※ベルトの販売はしておりません。

■セット内容



アンダートレイ本体
(塩化ビニール樹脂)

	低頭ボルト M5×35ボルト	4本
	樹脂ワッシャー	4個
	ワッシャー	4個
	袋Uナット	4個

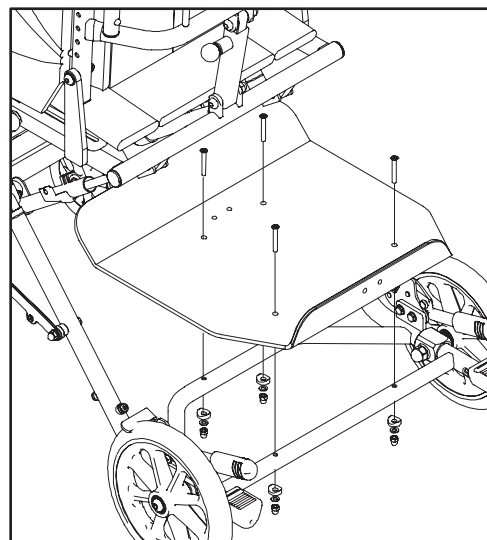
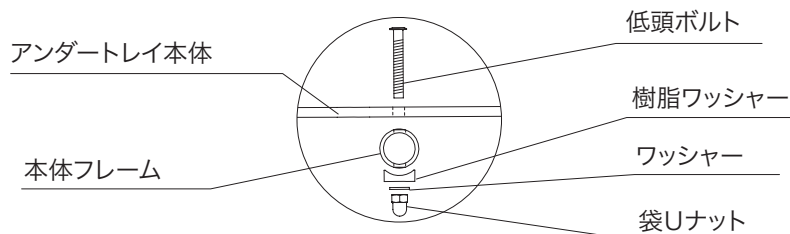
アンダートレイ取付けた状態



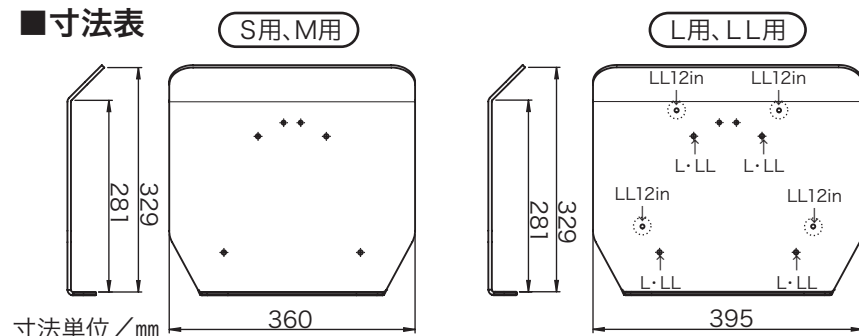
■取り付け方法

取付けには、No.2のプラスドライバーと8mmの工具を使用します。

- ①アンダートレイの固定用の穴とバギー本体フレームの4ヶ所の穴を合わせてください。
- ②4ヶ所穴がそろっていることを確認したら低頭ボルトを上から差し込んでください。
- ③下図に従って、本体フレームのパイプ下側から樹脂ワッシャー、ワッシャー、袋Uナットの順に手締めで組んだ後、工具を使ってしっかり締めこんでください。



■寸法表



※LL用は後輪が8inと12inで穴位置が異なります。点線で囲った穴がLL12in用です。取付けの際はご注意ください。



- 使用前には、確実に取り付けられていることを確認してください。
- 搭載台としての目的以外での使用は決しておこなわないでください。
- 決してアンダートレイを踏んだり、兄弟児が上に立ったり乗ったりしないでください。アンダートレイが破損して怪我をしたり本体フレームが折れ曲がるなどの恐れがあります。
- 直射日光下では表面が熱くなる恐れがあります。取扱いにご注意ください。
- 火気に近付けないでください。熱くなって変形したり、火傷する恐れやひどいときには燃えるなどして大変危険です。

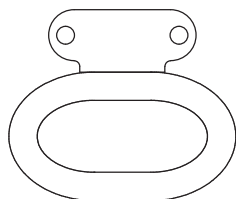
車載時固定用フック受け金具の取り扱いについて(WRBⅡオプション)

車載時固定用フック受け金具はWRBⅡを含む特定の機種のためのオプションです。本体フレーム(前足フレーム)にフック受け金具を取り付けると車載時に固定ベルトのフックをかけることができます。

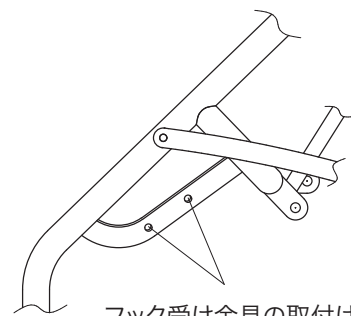
フック受け金具を取り付ける場合は、前足フレームにある取付け穴を使用してください。

■セット内容

- ・フック受け金具本体: <2個>
- ・六角穴付き半ネジボルトM6×20: <4本>
(緩み止め剤プレコート)
- ・ワッシャー φ6×φ13×2.0: <4個>
- ・袋Uナット M6: <4個>
- ・固定位置ラベル: <4枚>



〈フック受け金具本体〉

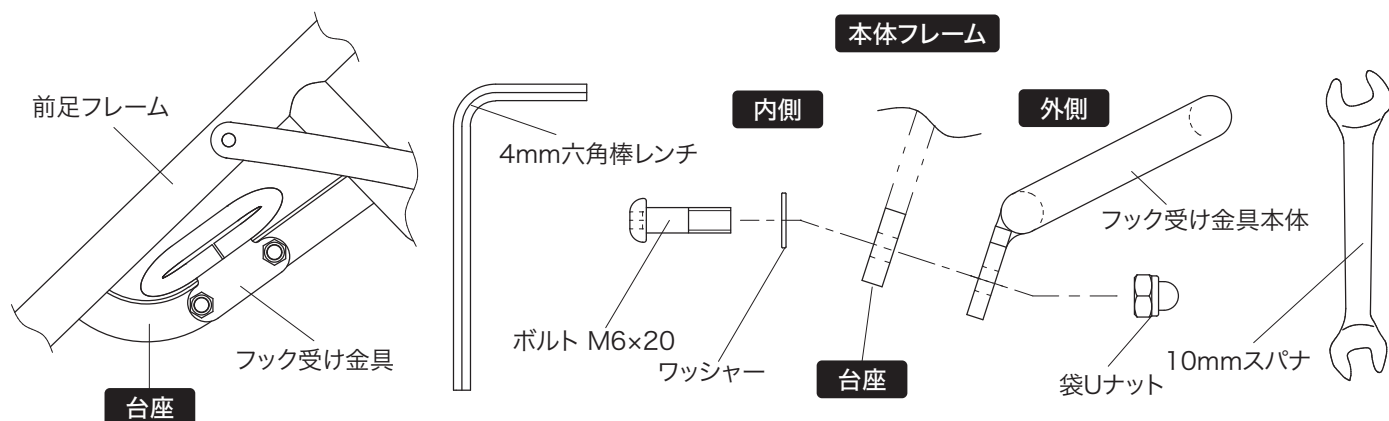


フック受け金具の取付け穴

■取り付け手順

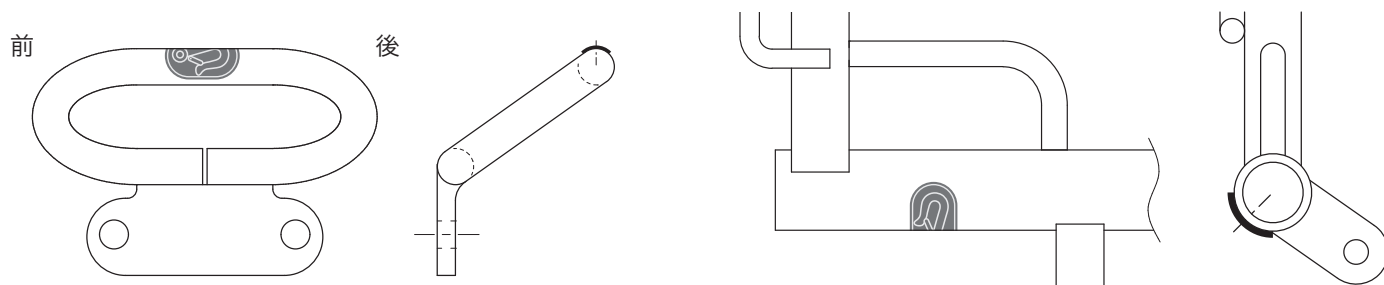
取り付けには4mmの六角棒レンチと10mmのスパナを使用します。

下記のように、台座の外側にフック受け金具本体をセットし、内側からM6ボルトを差し込んでください。図のような順に手締めで組んだ後、工具を使ってしっかり締めこんでください。組み付けたら、トルクレンチを用いて締め付けトルク5.2(N・m)に達していることを確認してください。締め過ぎによるボルトの破壊にもご注意ください。



■固定位置ラベル貼り付け箇所

フック受け金具を取り付けたら、固定位置ラベルを下図の指定位置にしたがって、必ず貼ってください。貼る前には余分なホコリや水気、油分がないように表面を拭いてください。



前足フレームのフック受け金具に左右で2箇所貼り付け

後座フレームの丸パイプに左右で2箇所貼り付け



- 使用前には、確実に取り付けられていることを確認して下さい。
- フック受け金具としての目的以外での使用は決しておこなわないでください。
- フック受け金具を後付けする場合は、必ず取扱業者が適切なボルトナットとトルク管理のもとで取り付け作業をおこなってください。決して、ご利用者様で取り付けをしないようお願いいたします。
- フック受け金具のボルトナットやその他本体の締結具合は、定期的にチェックしてください。
ねじのゆるみや脱落などが起因して、走行中に車椅子が動きだし、転倒したり車椅子が破損するなど重大な事故につながるおそれがあります。

車載使用時の車椅子の固定方法

- ① 車椅子を福祉車両の所定の位置に合わせたら、車椅子のブレーキをかけてください。(車両によっては、①と②の順番が前後することがあります。)
- ② 前方左右の固定ベルトのフックは、ベースフレーム前側に取り付けたフック受け金具(オプション)に左右それぞれ掛けてください。(写真1)
- ③ 後方左右の固定ベルトは、座フレーム後部の左右にあるフック受けケージの太いパイプ部分にフックを掛けてください。(写真2) ベルトは、できるだけ真後ろに引いてください。(写真3) フックは決して細いケージ枠の部分に掛けしないでください。(写真4)。



前側のフックをフック受け金具に掛ける。



後側のフックをフック受けケージに掛ける。

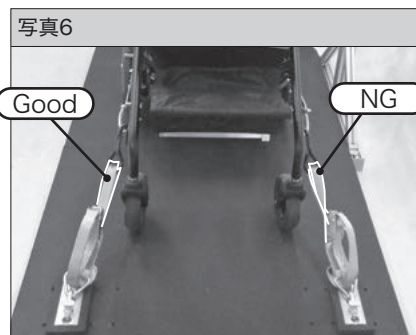
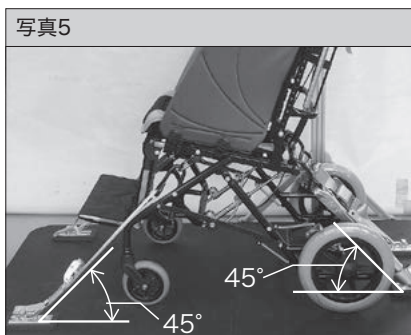


後側の固定ベルトはできるだけ真後ろに引く。



後側のフックの誤った掛け方

- ④ 固定ベルトの引き方向が調節できる場合は、前後の固定ベルトの床との角度が45°に近くなるようにしてください。(写真5)
- ⑤ 固定ベルトはできるだけ捻じれが少なくなるように掛けてください。一回転以上捻じれている場合は必ず捻じれを戻してください。捻じれて張られた固定ベルトは走行中に緩むことがあります。(写真6)
- ⑥ 固定ベルトは、できるだけ途中のベルト部分が車椅子のフレームや車輪に接触しないようにしてください。走行中に接触箇所がずれてベルトが緩んだり、擦れによってベルトを劣化させてしまうことがあります。
- ⑦ 車椅子を固定したあとは、絶対に新リク・背リク角度の設定を動かさないでください。



- 搭乗者の手足や腕、衣服や搭載品などが車椅子や固定ベルトなどに挟まれないように注意してください。
- 指定されている位置以外には固定しないでください。
- 走行前に固定ベルトが捻じれていないか、また確実に固定されていることを確認して下さい。確実に固定されていないと走行中に車椅子が動きだし、転倒したり車椅子が破損するなどの重大な事故につながるおそれがあります。

車載使用(走行する車両において座席として使用)についてのご注意

- ① 本車椅子は国際規格による衝突安全テストである「ISO7176-19AnnexA」に適合しています。これによって、本車椅子がテスト時に採用した使用状態※1(図1参照)であれば、ISOがモデル化した衝突事故で搭乗者が受けるダメージはISOの基準以下※2であり、かつ車椅子は、深刻な二次被害が生じる壊れ方をしない※3ことが確認されています。

※1 (図1参照) 3点式の腰ベルト: 中央部が胴と脚の境目で身体に密着し、両端側が床に対して約45°の角度で後方に引かれている。
/3点式の肩ベルト: 片方の肩の中央付近から対角線状に胸部に密着し、反対側の腰の近くで3点式の腰ベルトに接続している。
/車椅子固定ベルト: 前後の固定フックが所定の位置に掛けられ、それぞれが床に対して約45°の角度でハの字状に引かれている。
/バックサポートの角度: 水平からの起き角で65°。

※2 急ブレーキ中の搭乗者の頭の移動量が基準値以下である。/ 急ブレーキ中にずれた車椅子が搭乗者に大きな水平荷重を加える可能性は低い。/ 停止後にバックサポートの角度は変化しておらず、搭乗者は前後左右に大きく傾くことなく車椅子に座っている。

※3 鋭いエッジができる割れ方をしない。/ 搭乗者はシートベルトを外すだけで壊れた車椅子から容易に離れることができる。/ 壊れた車椅子から車載時固定用ベルトを容易に外すことができる。

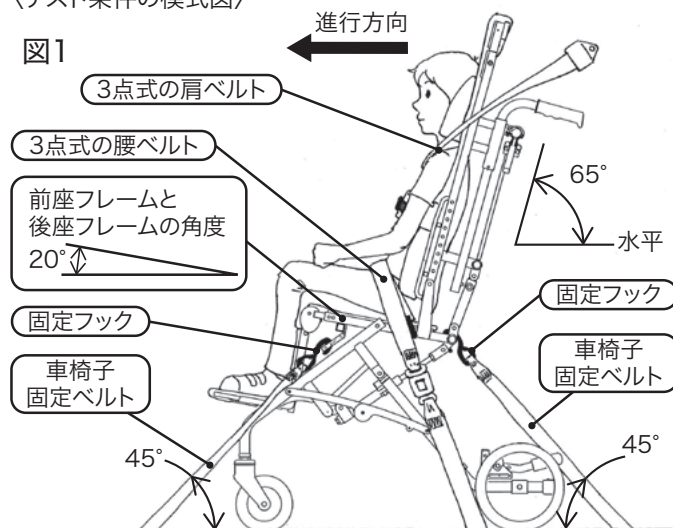
- ② 本車椅子が備える車載時固定用フック受け金具やフック受けケージなどの車載使用を補助する構造は、すべての車載使用の安全を保障するものではありません。
- ③ 本車椅子に装備された胸ベルト、腰ベルト、肩ベルト等は、通常使用での姿勢保持用のものであり、車両が走行する際の様々な加減速、路面の凹凸、カーブでの揺れなどに対して使用者の身体を完全に支えるものではありません。



- 本車椅子が衝突安全テストに適合した条件に近い使用状態であっても、全てのアクシデントに対応できるものではありません。衝突事故を含む実際のアクシデントは、ISOがモデル化した単純な正面衝突ではない場合が多数であり、本製品の車載安全性には限界があります。
- 車載使用については、搭乗者もしくは保護者(入所施設の責任者など含む)の責任において、実際のドライブ中にやむを得ず急ブレーキや急ハンドルなどの運転操作がなされた場合や、万が一の衝突事故が起こった場合のことを十分に考慮したうえで実施してください。

〈テスト条件の模式図〉

図1



■ (重要) 車両に装備されたシートベルトの装着方法と新リク・背リク角の設定について

搭乗者は、車両の取り扱い説明書に従った方法で車両の3点式シートベルト(腰ベルト、肩ベルト)を必ず装着してください。搭乗者が車両に装備されたシートベルトをしていない場合には、急停止の際に搭乗者が車椅子を離れて前へ飛び出すのを阻止できません。

本車椅子は新リクとリクライニング機構による姿勢変換機能を備えていますが、車載使用時には図1に示すように前座フレーム・後座フレーム角度が20°に設定されてバックサポートが水平からの起こし角で65°に設定されて前を向いている姿勢が理想的です。(本製品は、この条件で衝突安全テストに適合しています。)搭乗者の身体的な事情でこの姿勢まで起こせない場合は、できる範囲で新リク角とバックサポートのリクライニング角を起こしてください。

図1のような前を向いた姿勢や、車両の取り扱い説明書にあるような標準的なシートベルトの装着が難しい場合には、急ブレーキがかけられた時に搭乗者に起こる慣性的な動きを少しでも車両のシートベルトで受け止められるように努めてください。

図2に示すようにバックサポートのリクライニングを倒すほど急ブレーキ時には、身体がシートベルトの内側を滑り抜けて前方へずれやすくなります。この図2のように新リク角はあまり倒さずにバックサポートをリクライニングさせた全体的にフラットに近い条件の場合、搭乗者は車椅子から滑り落ちてしまいます。

一方で図3のように新リク角を倒して座面が立っている場合、急ブレーキ時には上半身がシートベルトの内側を滑り抜けて前方へずれやすくなります。臀部が座面に押し当たるので全身が滑り抜けて前に飛び出すことは防がれますが、上半身が圧縮されるようなダメージを受けるリスクが高くなります。

図1のように車両のシートベルトが機能している場合、搭乗者の上半身の飛び出しは肩ベルトがほぼ真後ろに引き止め、下半身の前への飛び出しは腰ベルトが斜め下に引き止めて座面に押さえつける動きに変えます。車椅子は、この座面に下向きにかかる荷重に耐えることで急減速時の衝撃を受け止めます。本車椅子は、アクシデントに際して、車両のシートベルトなしに搭乗者を受け止めることはできません。

図2

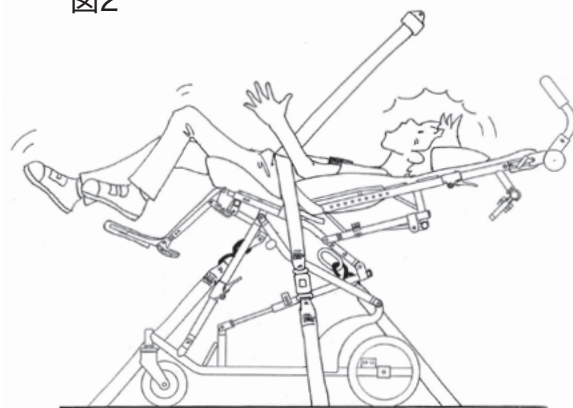
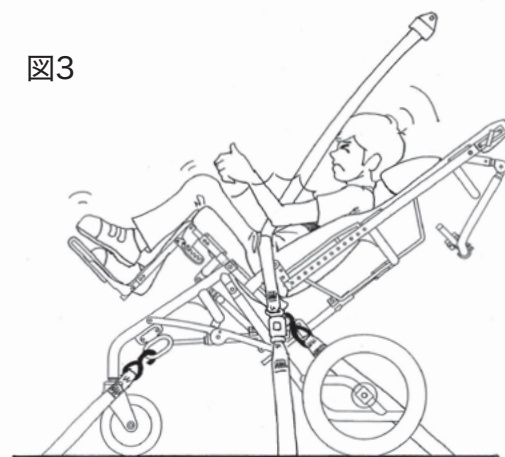


図3



- 車椅子での乗降は必ず介助者が行ってください。
- 安全のため車椅子本体に取り付けられている(処方された)ベルト類と車両の3点式シートベルトはどちらも必ず装着してください。
- 発進前に車椅子が確実に固定されていることを再確認してください。

お手入れ・メンテナンス

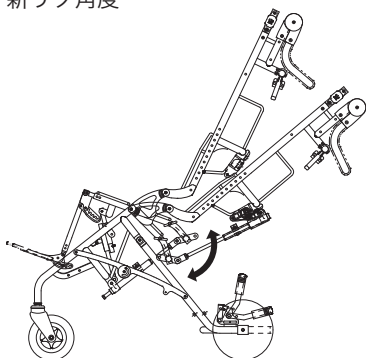
- フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
※特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- 可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- アームガードを洗うときは、中性洗剤を使用して手洗いしてください。十分にすすいでから絞らずにタオルなどで水気を取り、形を整えて陰干ししてください。洗濯機、乾燥機は絶対に使用しないでください。
- インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。
ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。
- 調整や修理などは、まず納品された取り扱い業者にご相談ください。
保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

仕 様

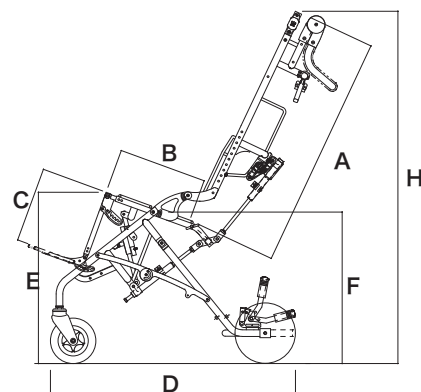
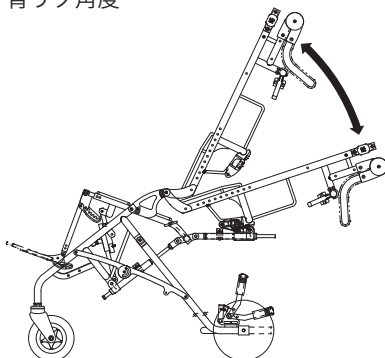
	単位	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ	LLサイズ
背幅/座幅	mm	385/365	385/365	410/390	455/435
背高さ(A)	mm	655~715	705~765	775~835	790~850
座奥行き(B)	mm	190~230	240~300	290~370	350~430
フットサポート高さ(C)	mm	200~270	230~320	250~360	290~420
前座高さ(E) 支点高標準	mm	532	542	566	578
前座高さ(E) 支点高60+	mm	588	597	626	638
支点高(F) 支点高標準	mm	480	480	500	500
支点高(F) 支点高60+	mm	540	540	560	560
車体寸法(W×D×H) 支点高標準	mm	540×750×1055	540×750×1095	565×810×1165	610×810×1170
車体寸法(W×D×H) 支点高60+	mm	540×760×1110	540×760×1150	565×825×1225	610×825×1230
折りたたみ寸法(W×D×H) 支点高標準	mm	540×755×480	540×790×460	565×850×500	610×870×480
折りたたみ寸法(W×D×H) 支点高60+	mm	540×790×480	540×790×460	565×850×500	610×870×480
新リクライニング角度(後座角)	度	20°~45°			
背リクライニング角度(背・後座角度範囲)	度	95°~141°			
エレベータリング角度	度	90°・105°・120°・136°・153°・173°			
フットサポート角度	度	90°・104°・118°・132°・146°			
基本重量(シート重量含む)	kg	14.8	15.1	16.9	18.1
調節スリングシート	材質	ナイロン100%			
シートユニット	材質	ポリエステル100%			
対象身長	cm	約90~110	約100~130	約120~140	約145~170

■ 上記の寸法表は、基本的な装備、シートユニットでの計測値であり、部品の構成によって重量や寸法など異なる場合があります。

新リク角度



背リク角度



製造・発売元

株式会社 きさく工房

〒811-2126 福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11
TEL 092-932-7600 FAX 092-932-1037
E-mail info@kisakukobo.jp

取り扱い業者・連絡先

2025.6